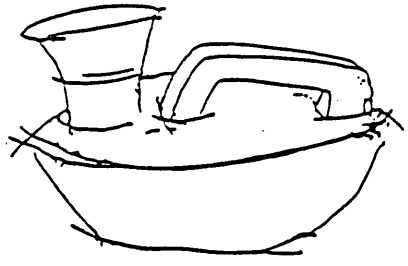
阪南町埋蔵文化財報告XI

阪南町埋蔵文化財発掘調査概要VI



1991年3月

阪南町教育委員会

はしがき

ここ大阪湾の沖合では、関西新空港の建設工事が急ピッチで進められています。空港開港に伴って大阪市内（都心）への交通網が徐々に整備され、交通網の整備が進むにつれ、住宅地の開発工事も増加しています。私たちの阪南町は、その好例と言えましょう。ここ近年、人口も増加の一途をたどり、本年10月には市制施行をむかえようとしています。

阪南町では、文化財保護法に基づき、こうした開発工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査を事前に実施しています。その件数は年々増加し、ここ数年では年間約30件にものぼっています。

本報告書は、実施した発掘調査のうち個人の住宅等に伴うもので、国庫補助事業を対象としたものです。小規模な調査ばかりではありますが、こうした調査の積み重ねによって少しずつ遺跡の性格等が明らかにされていきます。

今年度は、田山遺跡をはじめ６遺跡で発掘調査を実施しましたので、ここにその成果の報告をいたします。この報告が文化財の理解のために少しでも役立てば幸いです。

最後になりましたが、調査にご協力くださった土地所有者ならびに関係者の方々に深く感謝いたしますとともに、今後ともご協力をお願いいたします。

平成３年３月

阪南町教育委員会

教育長　庄司　菊太郎

例　　言

1．本書は、阪南町教育委員会が平成２年度国庫補助事業として計画し、社会教育課が担当実施した阪南町内遺跡発掘調査概要報告書である。

2．調査は、阪南町教育委員会社会教育課三好義三、同嘱託員田中早苗を担当者として実施した。

3．調査にあたっては、調査地の土地所有者等関係各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。

4．本書の編集および執筆は、三好が行った。また、実測図等の作成については、下記の調査従事者による。

5．本調査における記録は、実測図面、写真、カラースライド等に保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

（調査従事者）

宇沢克之、堀川武良、寺田久一、橋本康之、木下楠治、麻生正一郎、和田旬世、井上祥子、上久保健吾、西畑昭男、中村淳二、小林克子

目　　次

第１章　　調査に至る経過　　1

第２章　　歴史的環境　　2

第３章　　調査成果

　　１節　田山遺跡　　4

　　２節　田山東遺跡　　9

　　３節　箱作今池遺跡　　12

　　４節　貝掛遺跡　　16

　　５節　神光寺（蓮池）遺跡　　17

　　６節　自然田遺跡　　21

第４章　　まとめ　　24

図　版　目　次

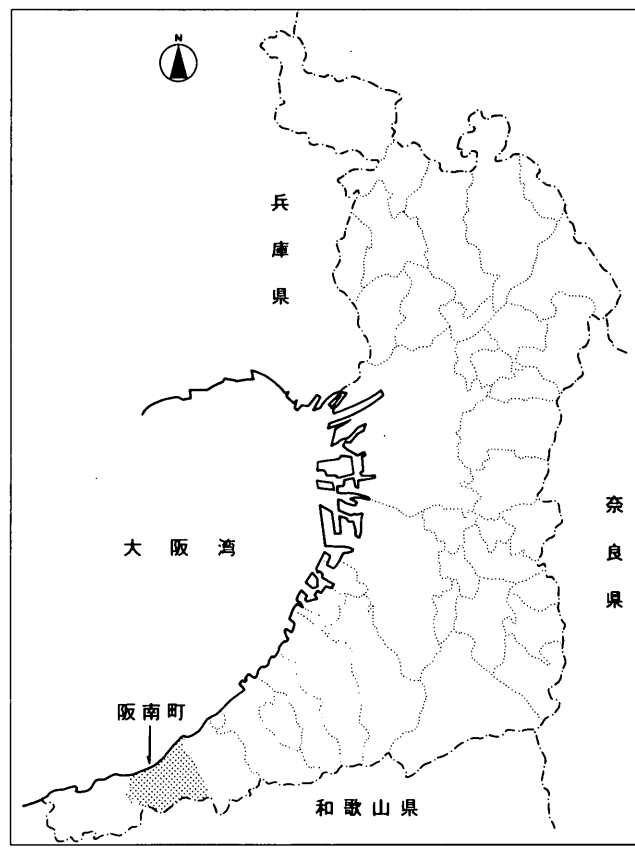
図版１　田山遺跡　90－１区
図版２　田山遺跡　90－２区
図版３　田山遺跡　90－４区
図版４　田山東遺跡　90－１区
図版５　田山東遺跡　90－３区
図版６　箱作今池遺跡　89－３区
図版７　箱作今池遺跡　90－２区・90－３区
図版８　貝掛遺跡　90－２区・神光寺（蓮池）遺跡　89－６区
図版９　神光寺（蓮池）遺跡　90－１区
図版10　神光寺（蓮池）遺跡　90－１区・自然田遺跡　90－４区

第１章　調査に至る経過

阪南町は、大阪府の南部に位置し、大阪市のベッドタウンとして人口が急増している。平成３年10月には、「阪南市」としてスタートを切ることが予定されている。

こうしたなか、町内の開発工事も当然増加しており、この開発工事に伴う埋蔵文化財包蔵地内での土木工事の届出件数も年々増加の一途をたどっている。昭和60年度にはわずか数件であったのが、今年度は１月末現在ですでに40件を越えるまでになっている。

阪南町教育委員会では、これらの届出に対し、埋蔵文化財の保存や保護活用を図るべく、昭和60年度より国庫補助事業として、発掘調査を実施している。今年度は、田山遺跡、神光寺（蓮池）遺跡等で調査を実施した。



阪南町位置図

第2章　歴史的環境

現在、阪南町で人類の足跡が確認できる最古のものは、旧石器時代の産物である。神光寺（蓮池）遺跡から旧石器時代終末期のものと考えられている有舌尖頭器が採集されている。

縄文時代になると、遺構は検出されていないが、馬川北遺跡で後期から晩期にかけての土器片が出土しているのをはじめ、玉田山遺跡、貝掛遺跡、田山遺跡、自然田遺跡等において、石鏃等の石器が検出されている。

弥生時代では、神光寺（蓮池）遺跡の方形周溝墓―中期―が最も知られている。同遺跡からは、同じ時期の自然流路やこれに伴って各種の土器、石器が検出されている。この遺跡周辺において水稲栽培を行っていた集落が存在していたことは間違いないものと思われる。

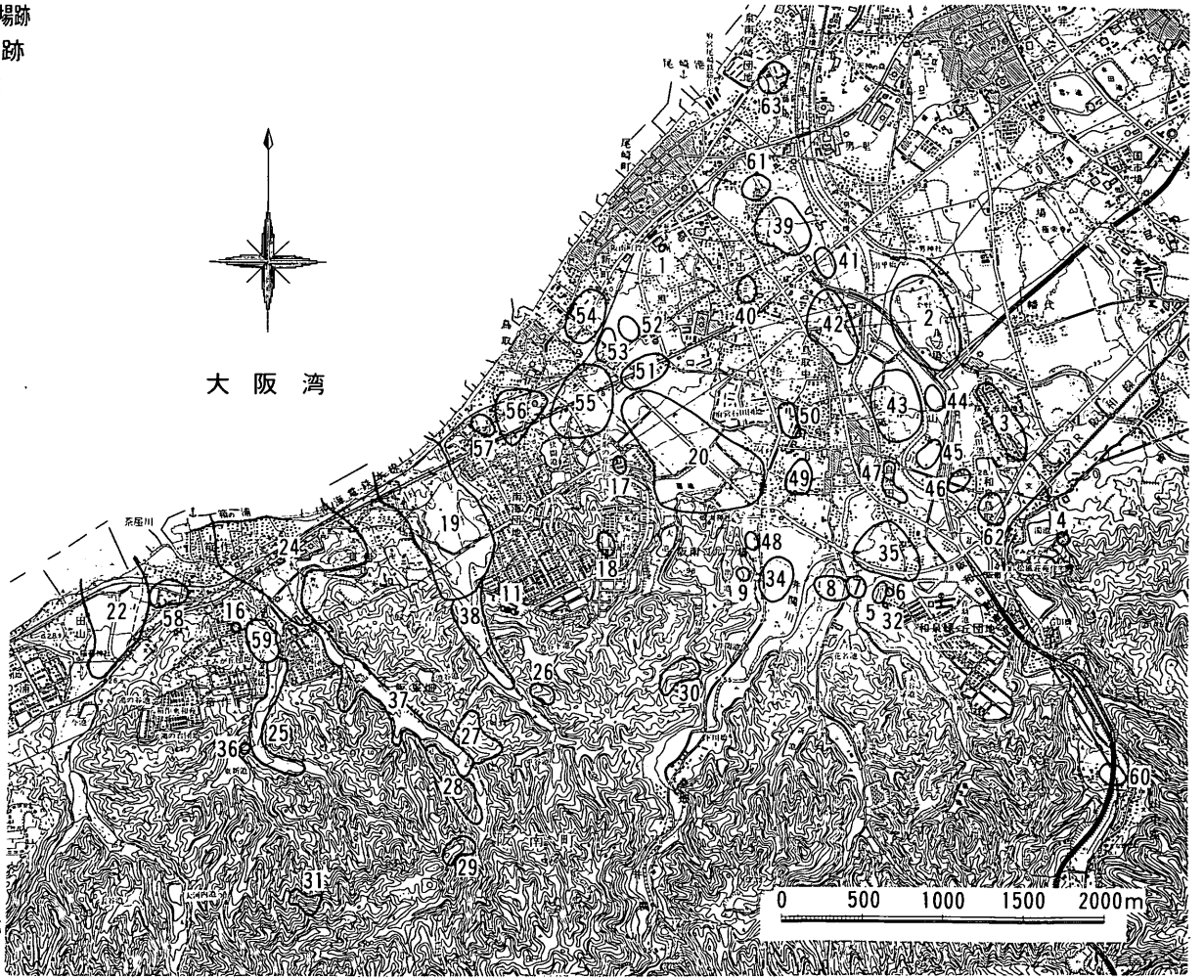
古墳時代では、玉田山古墳群をはじめ、後期の古墳群が存在する。しかし、この古墳を築造したと考えられる集団の集落は、確認されるに至っていない。今後の調査が待たれよう。

古代、奈良、平安時代としては、田山遺跡において製塩関係遺物等が周知されている。こうした製塩土器の出土は、当時のこの周辺地域の重要な産業であったことを裏付けている。一方、平安時代になると平野寺（長楽寺）跡が知られ、寺域等は、明確になっていないが、複弁蓮華文の軒丸瓦、これに伴う軒平瓦が採集されている。

中世になると、南北朝期の山城跡―井山城跡―が先年実施された発掘調査により、その全貌がほぼ明らかになった。この他、田山遺跡や箱作今池遺跡等において、この時期の漁労関係遺物が大量に出土しており、当時における漁村の存在が推定されている。

近世では、この泉州地域の名産であった和泉砂岩を採集していた石切場跡―箱作ミノバ石切場跡、箱作細谷石切場跡―が特異な遺跡として知られている。このうち前者は、先年発掘調査が実施され、石切り産業について考古学的に実証されることになった。

1 皿田池古墳
2 平野寺(長楽寺)跡
3 高田山古墳群
4 雨山遺跡
5 玉田山古墳群
6 玉田山遺跡
7 寺田山遺跡
8 岩崎山遺跡
9 石田山遺跡
11 塚谷古墳群
16 箱作古墳
17 三昧谷遺跡
18 三升五合山遺跡
19 貝掛遺跡
20 神光寺(蓮池)遺跡
22 田山遺跡
24 箱作今池遺跡
25 茶屋遺跡
26 四郎太郎遺跡
27 稲丸遺跡
28 井山城跡
29 箱作ミノバ石切場跡
30 帥道谷遺跡
31 箱作細谷石切場跡
32 玉田山須恵器窯跡
34 井関遺跡
35 自然田遺跡
36 箱作仏屋谷石切場跡
37 飯ノ峯畑遺跡
38 金剛寺遺跡
39 馬川遺跡
40 内畑遺跡
41 下出北遺跡
42 室堂遺跡
43 向出遺跡
44 久保田遺跡
45 高田西遺跡
46 高田南遺跡
47 向山遺跡
48 小口谷遺跡
49 西畑遺跡
50 正方寺遺跡
51 黒田南遺跡
52 黒田西遺跡
53 鳥取遺跡
54 鳥取北遺跡
55 鳥取南遺跡
56 西鳥取遺跡
57 戎遺跡
58 田山東遺跡
59 箱作南遺跡
60 山中渓遺跡
61 馬川北遺跡
62 和泉鳥取遺跡
63 福島遺跡



第1図 阪南町内埋蔵文化財分布図

第３章　調査成果

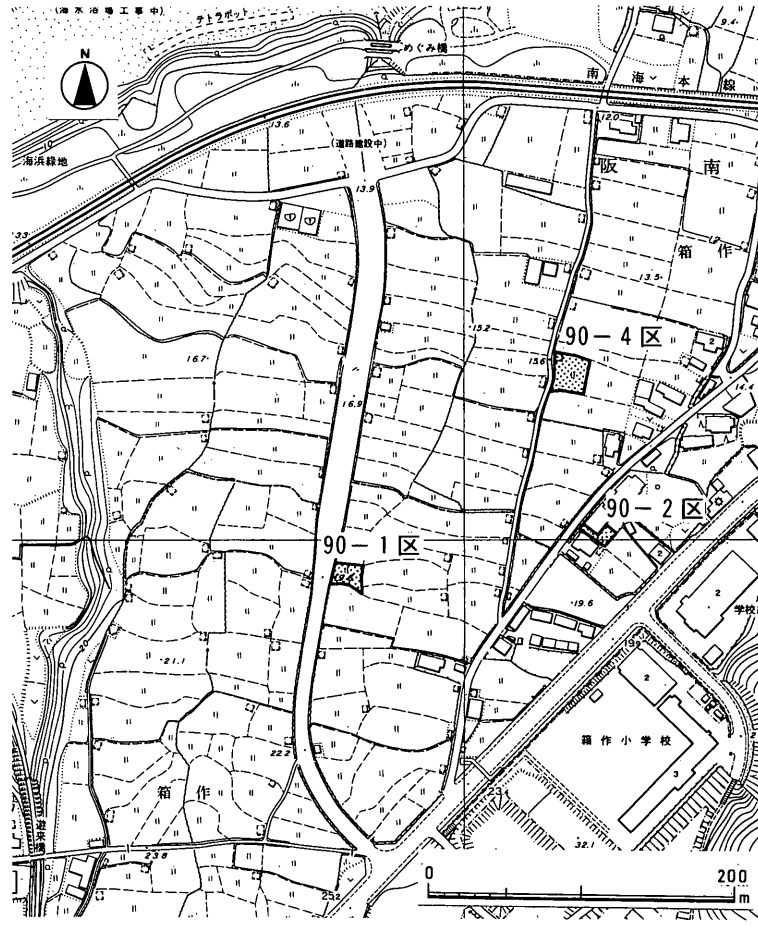
１節　田山遺跡

田山遺跡は、阪南町の西南、海岸部に位置している。これまでの調査では、縄文時代の石鏃から近世期の陶磁器に至るまで、様々な遺物が出土し、遺構としても奈良時代の集落を検出している。特に、海浜部に位置することから漁業関係の遺物が多量に出土している。また、中世期の中国産の青磁、白磁碗等も検出されており、単なる漁業集落ではなく、当時中国との貿易に何らかの関係があったことが推定されている。

90－１区

１．位置（第２図）

調査区は、田山遺跡のほぼ中心部にあたる。(財)大阪文化財センターが府道設置に先立ち実施した調査区に隣接している。また、この他昭和60年度以降において、たびたび国庫補助事業として調査を実施した調査区が周辺に存在する。これらの調査においても上述した遺物等が検出されている。



第２図　田山遺跡　調査区位置図

2．調査の概要（第3・4図、図版1）

調査は、調査区の南東隅に、東西方向に1m×5m、南北方向に1m×4mのトレンチを設定して実施した。前者を1トレンチ、後者を2トレンチとした。

基本的な層序は、第4図のとおりである。第2、3層が遺物包含層で、第4層が無遺物層であった。

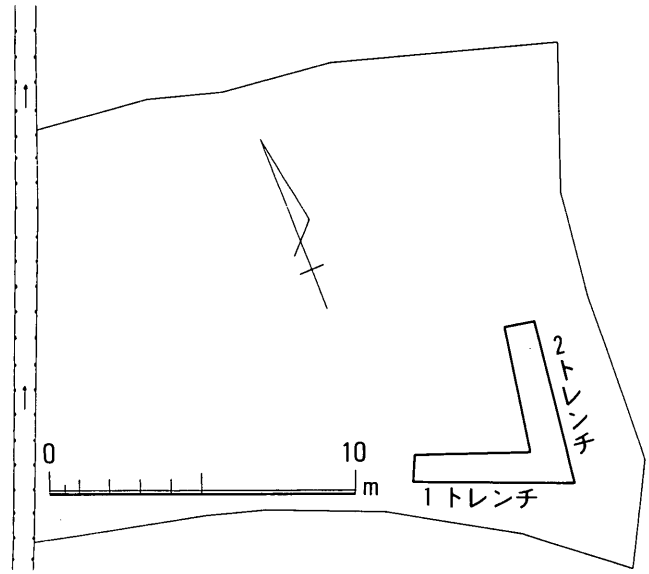
3．遺構（第4図、図版1）

1トレンチにおいて0.5m×0.6m以上の土坑およびピットを検出した。それぞれの埋土については、第4図を参照されたい。

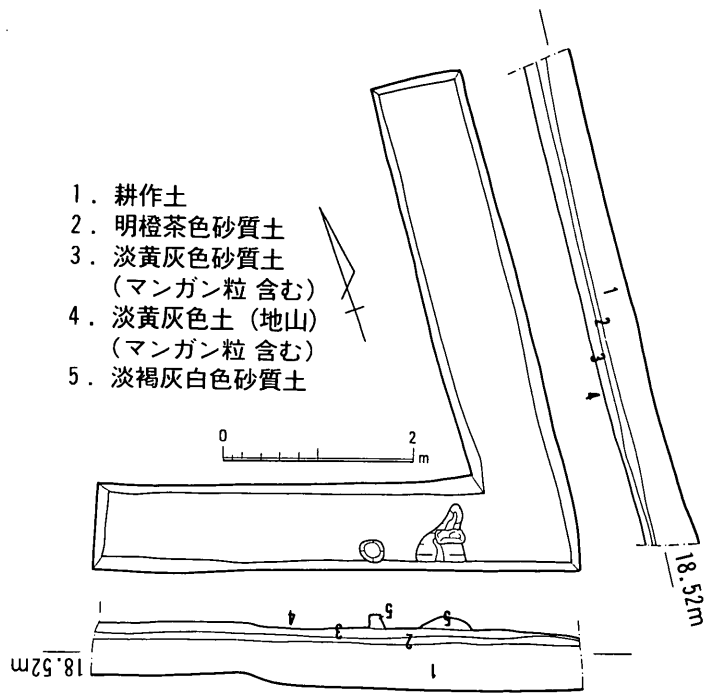
土坑から土師質土器の細片が出土したが、時期等については、決定しがたい。

4．遺物（第5図、図版1）

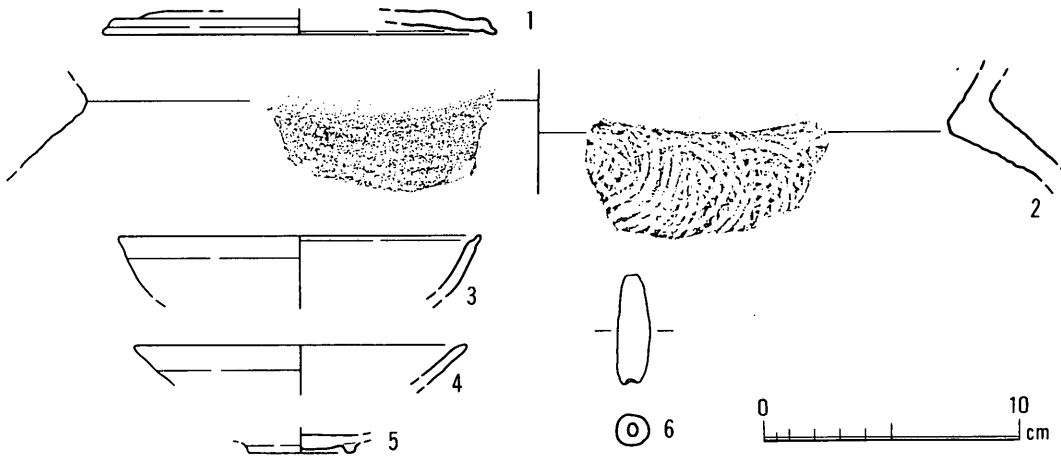
1、2は、須恵器のそれぞれ坏蓋、甕である。3、4、5は、瓦器椀の口縁部、高台部である。6は土師質の管状土錘である。



第3図　田山遺跡90－1区　トレンチ位置図



第4図　田山遺跡90－1区　トレンチ平面図・断面図



第５図　田山遺跡90－１区　出土遺物

90－２区

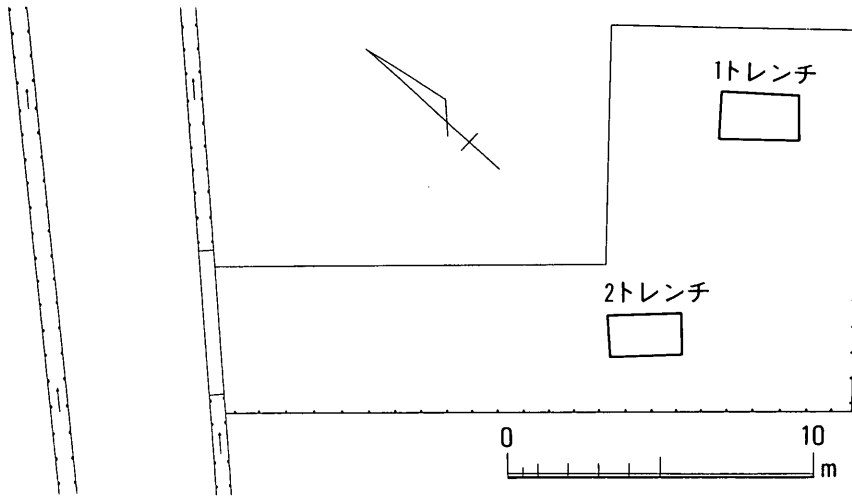
１．位置（第２図）

調査区は、田山遺跡の西端部分にあたる。隣接地域で過去の調査例は報告されていない。調査区の面する道路は、旧の孝子越街道とされる道で、大阪湾の海岸に沿って和歌山に通じていた生活道であった。

２．調査の概要（第６・７図、図版２）

調査は、調査区の東隅に、1.5m×2.5m、西隅に1.2m×2.5mのトレンチを設定して実施した。前者を１トレンチ、後者を２トレンチとした。

基本的な層序は、第７図のとおりである。第３、４、５層が遺物包含層で、第６層が無遺物層であった。後述の



第６図　田山遺跡90－２区　トレンチ位置図

ように、青磁、瓦器、土師器片等が検出された。

3．遺構（第7図、図版2）

溝－1

2トレンチにおいて検出した。幅0.45m、深さ0.1mを呈する。埋土中より土師器片が出土した。

溝－2

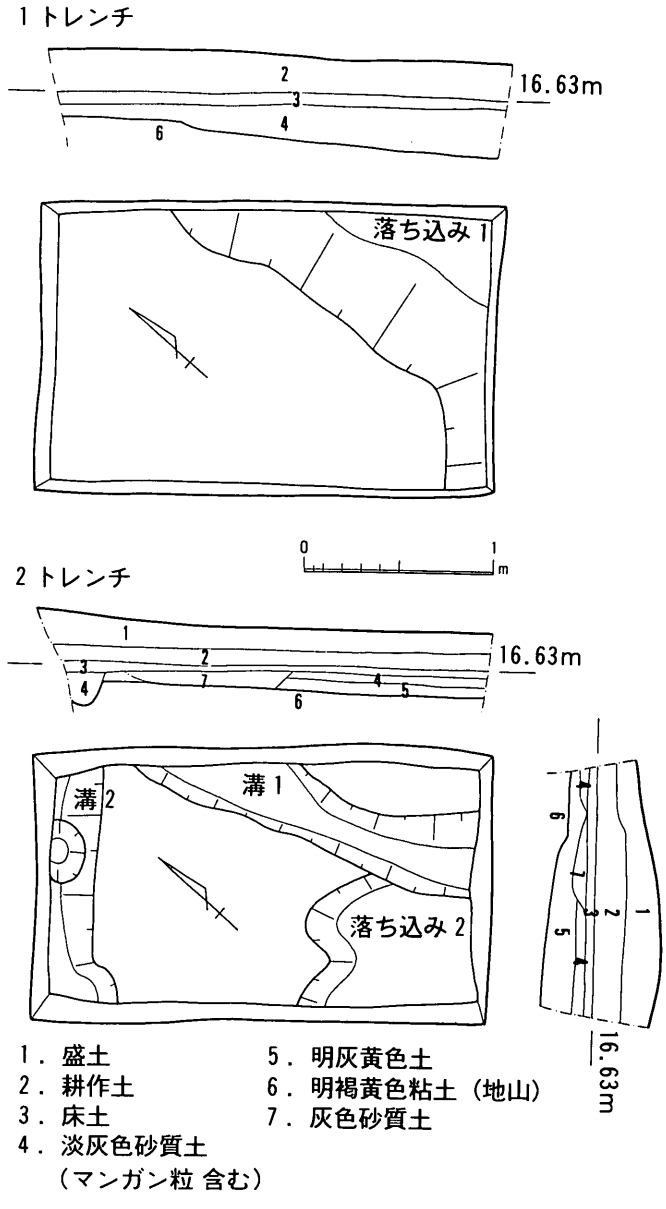
同じく2トレンチにおいて検出した溝で、幅0.25m以上、深さ0.15mを呈する。埋土中より瓦器片が出土した。

落ちこみ－1

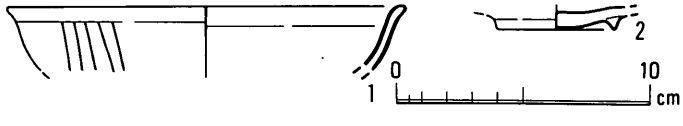
1トレンチにおいて幅が0.9m以上を呈する落ちこみあるいは溝と思われる遺構を検出した。埋土中より瓦器および土師器片が出土した。

落ちこみ－2

2トレンチにおいて南方向に延びる落ちこみを検出した。埋土は、第5層であった。埋土中より土師器片が出土した。



第7図　田山遺跡90－2区　トレンチ平面図・断面図



第8図　田山遺跡90－2区　出土遺物

4．遺物（第8図、図版2）

1は、青磁碗の口縁部分である。いわゆる青磁蓮弁碗で、蓮弁がかなり退化しているところから15世紀の終わりから16世紀の初め頃のものと思われる。釉もあまり厚くない。1トレンチの遺物包含層から検出された。

2は、瓦器椀の高台部である。かなりの磨滅を受けている。1トレンチの落ちこみ内から検出された。

90－4区

1．位置（第2図）

調査区は、田山遺跡のほぼ中央部分にあたる。隣接地域で過去の調査例は報告されていないが、(財)大阪文化財センターが府道設置に先立ち実施した調査区の東方約100mの地点である。

2．調査の概要（第9・10図、図版3）

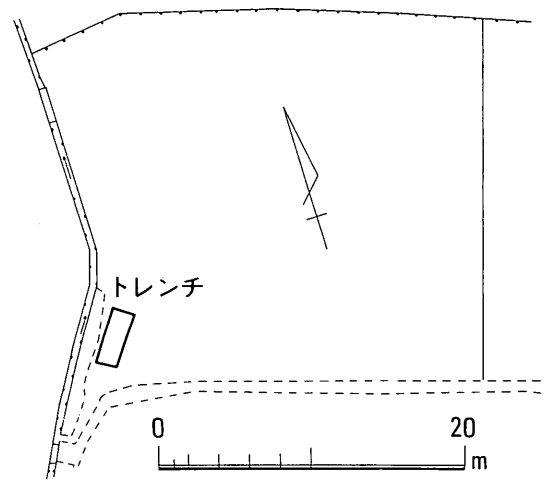
調査は、調査区の西隅に1.5m×4mのトレンチを設定して実施した。

基本的な層序は、第10図のとおりである。第3層が遺物包含層で、第5層が無遺物層であった。遺物包含層から、須恵器、瓦器、土師器、白土器、土師質の蛸壷片等が検出された。

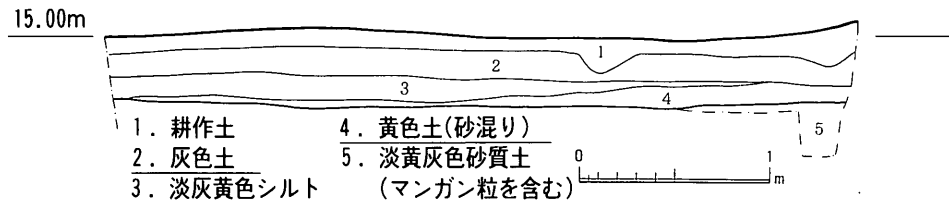
遺構は、検出されなかった。

3．遺物（第11図、図版3）

1は、土師質の蛸壷で、周辺部分の調査でも大量に出土している中世期のマダコ捕獲用のものである。

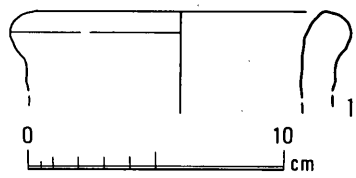


第9図　田山遺跡90－4区　トレンチ位置図



第10図　田山遺跡90－4区　トレンチ西側断面図

この他、上述したように須恵器、白土器片等が出土しているが、細片のため、図化し得なかった。このうち、白土器は、これまで、中世の一時期に紀伊国根来寺周辺で生産されたものである。阪南町域では、この田山遺跡の他に、神光寺（蓮池）遺跡で検出されている。



第11図　田山遺跡90－４区
出土遺物

２節　田山東遺跡

田山東遺跡は、阪南町の西北部に位置し、昭和63年度に阪南町教育委員会が、国庫補助事業として実施した埋蔵文化財分布調査により周知された遺跡である。その性格は、明確ではないが、田山遺跡に隣接しており比較的似通ったものと思われる。周知後初めて、今年度遺跡内で数件の発掘調査が実施された。うち国庫補助事業として実施した２件について、以下に報告する。

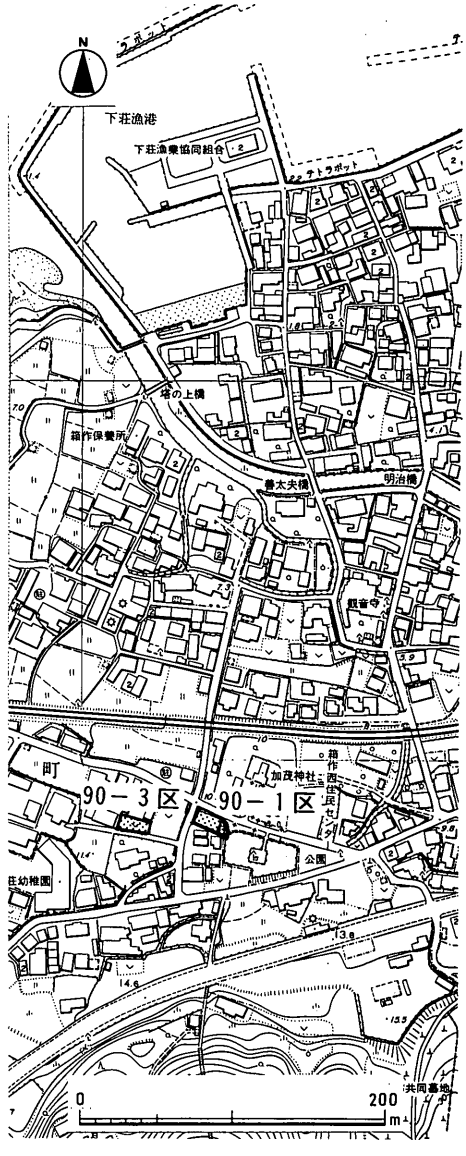
90－１区

１．位置（第12図）

調査区は、田山東遺跡の西端部分にあたる。

２．調査の概要（第13・14図、図版４）

調査は、調査区のほぼ中央部に、東西方向に1.5m×６m、中央部やや東よりに南北方向に２m×５mのトレンチを設定して実施した。前者を１トレンチ、後者を２トレンチとした。

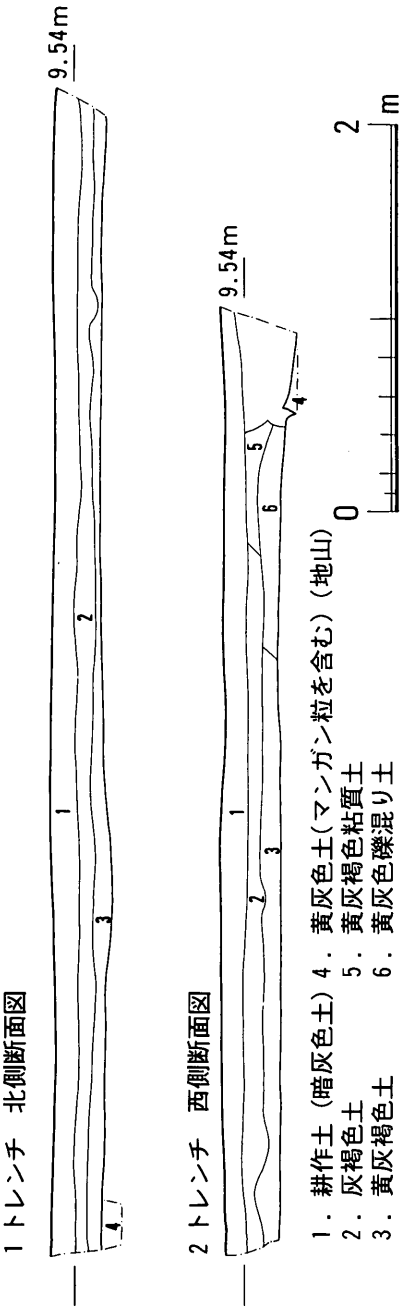


第12図　田山東遺跡　調査区位置図

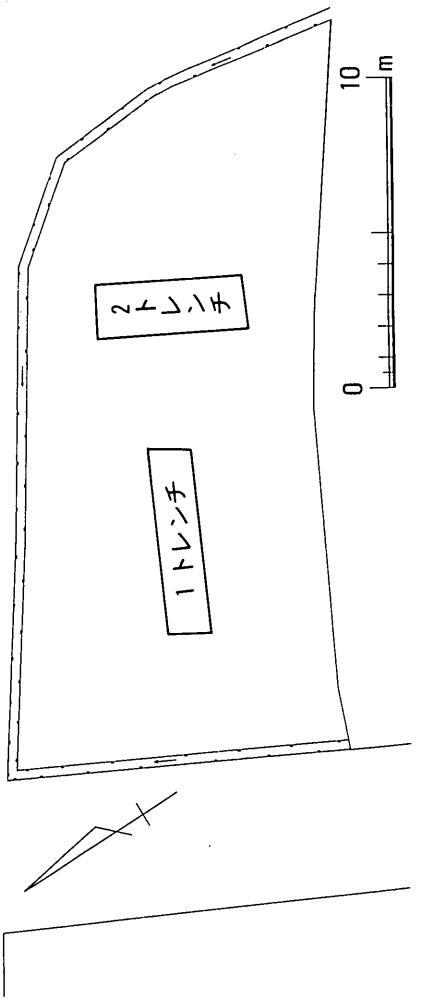
基本的な層序は、第13図のとおりである。第２、３層が遺物包含層で、第4層が無遺物層であった。遺物包含層から、須恵器、土師器、瓦、陶器、土師質の蛸壷片、土師質の土錘等が検出された。また、第１層耕作土中からも磁器や土師質の蛸壷片、土師質の土錘が出土した。

遺構は、検出されなかった。

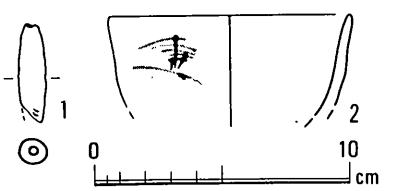
３．遺物（第15図、図版４）



第13図　田山東遺跡90－１区
トレンチ断面図



第14図　田山東遺跡90－１区
トレンチ位置図



第15図　田山東遺跡90－１区
出土遺物

１は、土師質の土錘で１／３程度が欠損している。２の磁器は、染め付けの口縁部分である。伊万里焼と思われる。

90－３区

１．位置（第12図）

調査区は、田山東遺跡の西よりの部分にあたる。前述した90－１区に近接している。

２．調査の概要（第17・18図、図版５）

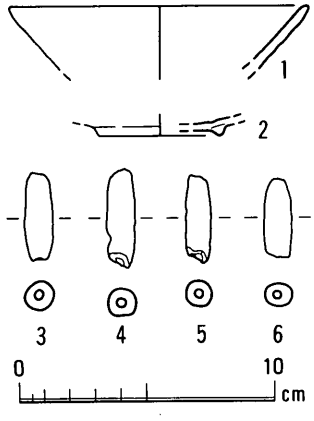
調査は、調査区の北隅に、東西方向に0.8m×3.5m、ほぼ中央部に南北方向に１m×５mのトレンチを設定して実施した。前者を１トレンチ、後者を２トレンチとした。

基本的な層序は、第18図のとおりである。第２、３、４層が遺物包含層で、第５層が無遺物層であった。遺物包含層から、須恵器、土師器、瓦器、土師質の土錘等が検出された。

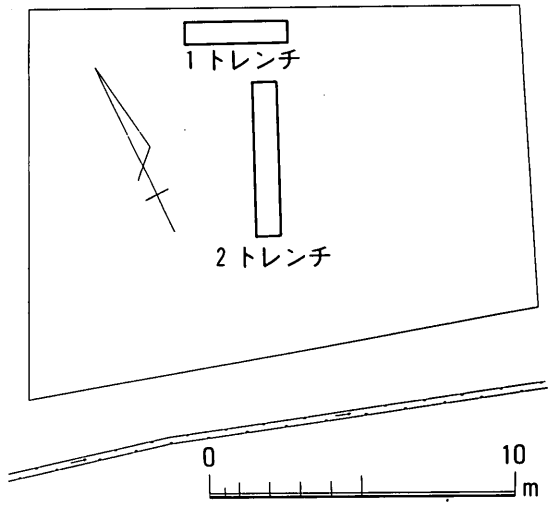
遺構は、検出されなかった。

３．遺物（第16図、図版５）

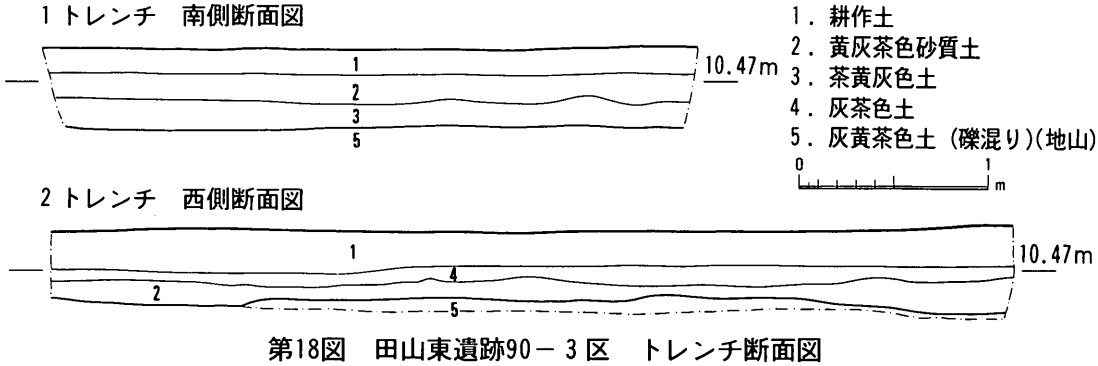
１は、土師質の椀の口縁部であるが、かなりの磨滅がみられ、調整等については不明である。２は、瓦器椀の高台部分である。内面にヘラミガキがみられる。３～６は、いずれも土師質の土錘である。３はほぼ完形であるが、４～６は、３／４～２／３程度の残存である。



第16図　田山東遺跡　90－３区　出土遺物



第17図　田山東遺跡90－３区　トレンチ位置図



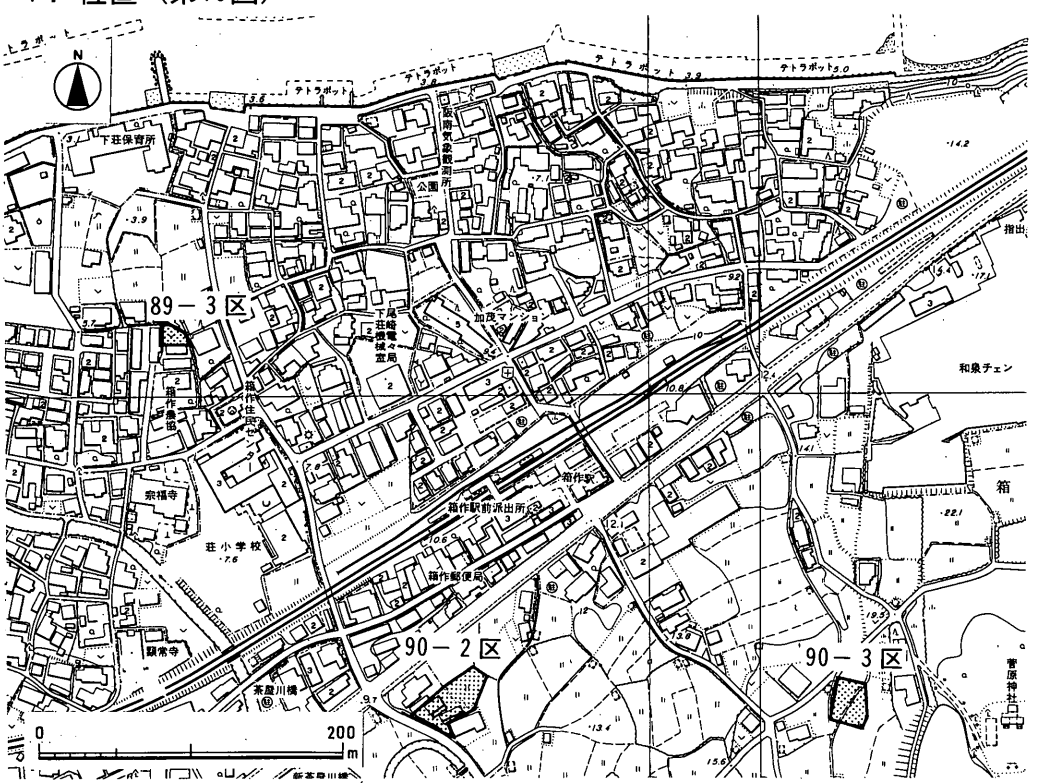
第18図　田山東遺跡90－３区　トレンチ断面図

3節　箱作今池遺跡

箱作今池遺跡は、阪南町の西部に位置し、茶屋川、飯ノ峯川等が形成する平野部に拡がっている。既往の調査では、漁業関係の遺物や遺構が検出されているほか、須恵器、土師器、瓦器等の生活遺物も今日の箱作地区の集落と重なる地域を中心として出土している。これらのことから、少なくとも7～8世紀頃には、この周辺に漁業等を業いの中心とした集落が存在していたようである。この時期に結びつくような遺構はこれまで検出されていないが、今後の調査で確認される可能性は高いものと思われる。また、中世から近世期にかけての輸入陶磁器―青磁碗―等についても、過去に出土しており、当時における交易を伺うことができる。

89－3区

1．位置（第19図）



第19図　箱作今池遺跡　調査区位置図

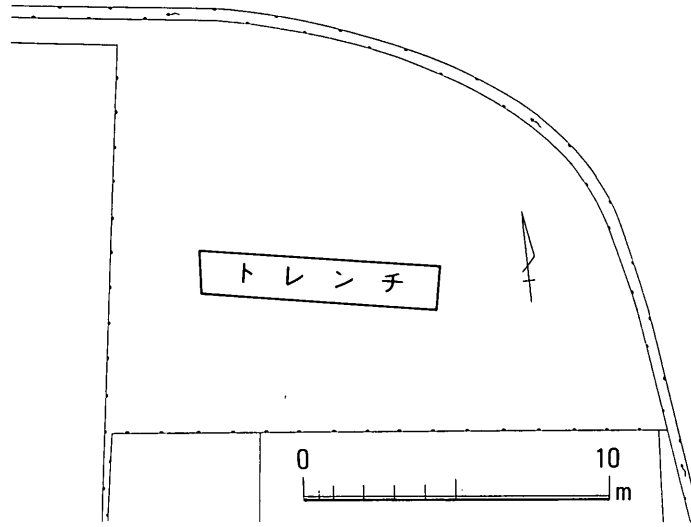
調査区は、箱作今池遺跡の北西端部にあたる。

2．調査の概要

（第20・22図、図版６）

調査は、調査区のほぼ中央部に、東西方向に1.5m×８mのトレンチを設定して実施した。

基本的な層序は、第22図のとおりである。第１～４層が遺物包含層で、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、土師質の蛸壺片等が検出された。また、耕作土中から土師質の土錘も検出されている。

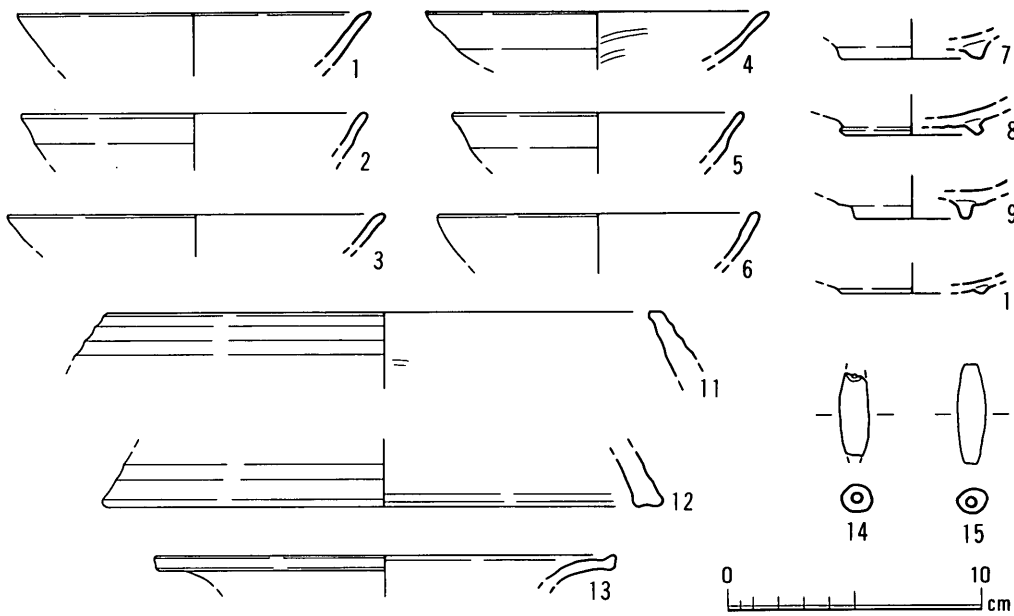


第20図 箱作今池遺跡89－３区 トレンチ位置図

3．遺構（第22図、図版６）

土坑－１

トレンチの西端で検出した。径約0.7m、遺構検出面からの深さ約0.3mを呈する。含土中から、土師器片および土師質の土錘が出土している。



第21図　箱作今池遺跡89－３区　出土遺物

土坑－2

トレンチのほぼ中央部で検出した。長径約2m、短径1m以上、遺構検出面からの深さ約0.4mを呈する。含土中から、土師器、須恵器片が出土している。

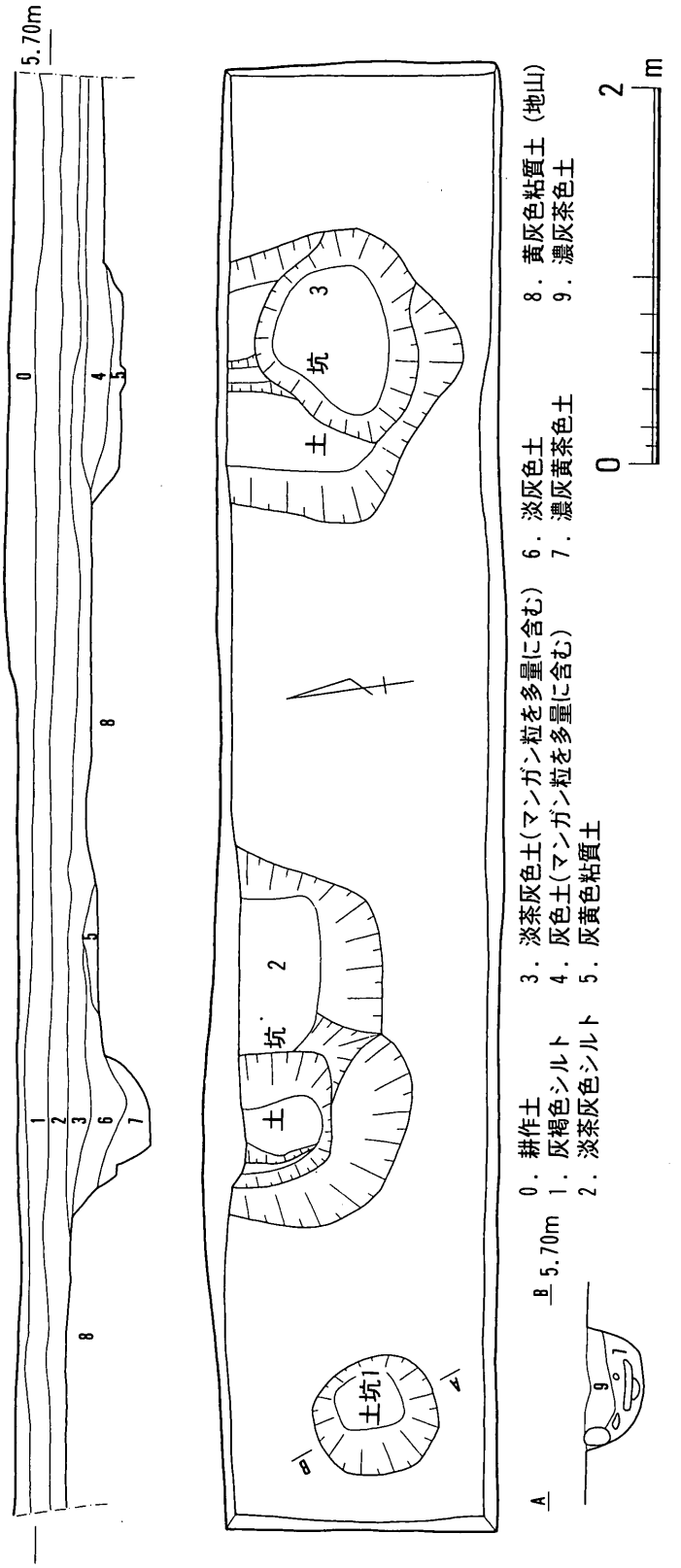
土坑－3

トレンチのほぼ中央部で検出した。長径1.3m以上、短径約1.5m、遺構検出面からの深さ約0.2mを呈する。

4．遺物

（第21図、図版6）

1～6は、瓦器椀の口縁部、7～10は、同じく高台部である。いずれも遺物包含層からの出土である。4の内面には、わずかにヘラミガキがみられる。11は、瓦質の羽釜の口縁部分である。12は、須恵器の器台と思われる。13は、同じく須恵器の壷の口縁部分である。14、15は、土師質の土



第22図　箱作今池遺跡89－3区　トレンチ平面図・断面図

錘である。15は、完形であるが、14は、両端部が若干欠損している。15は、先述した土坑－１から検出された。

90－２区

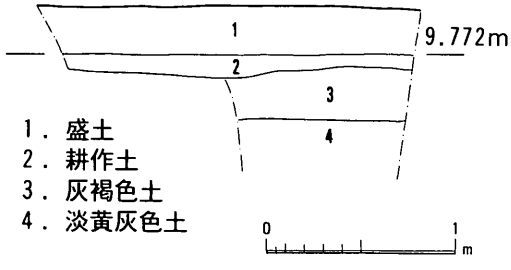
１．位置（第19図）

調査区は、箱作今池遺跡の西端部にあたる。隣接地域で過去の調査例は報告されていない。

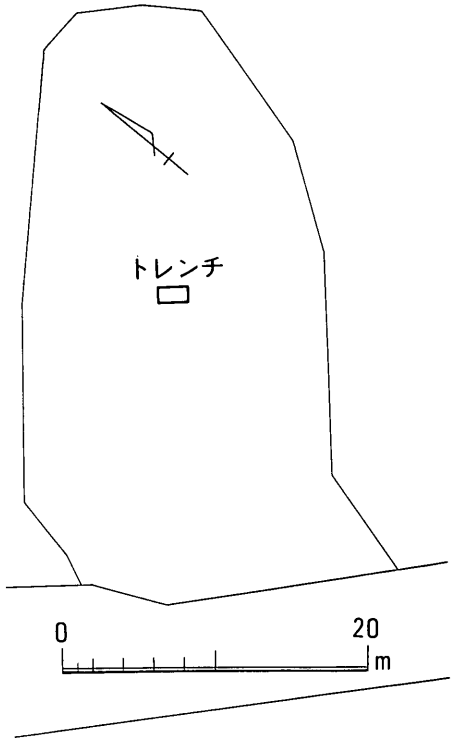
２．調査の概要（第23・24図、図版７）

調査は、調査区のほぼ中央部に、１ｍ×２ｍのトレンチを設定して実施した。基本的な層序は、第23図のとおりである。第２、３、４層が遺物包含層であった。遺物包含層から、土師器、瓦器片等が検出されたが、細片のため、図化し得なかった。

遺構についても検出されなかった。



第23図　箱作今池遺跡90－２区
トレンチ西側断面図



第24図 箱作今池遺跡90－2区
トレンチ位置図

90－３区

１．位置（第19図）

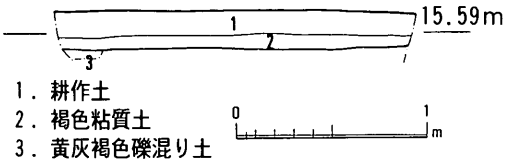
調査区は、箱作今池遺跡の東端部分にあたる。隣接地域で過去の調査例は報告されていない。

２．調査の概要（第25図、図版７）

調査は、調査区のほぼ中央部に、１ｍ×２ｍのトレンチを設定して実施した。

基本的な層序は、第25図のとおりである。

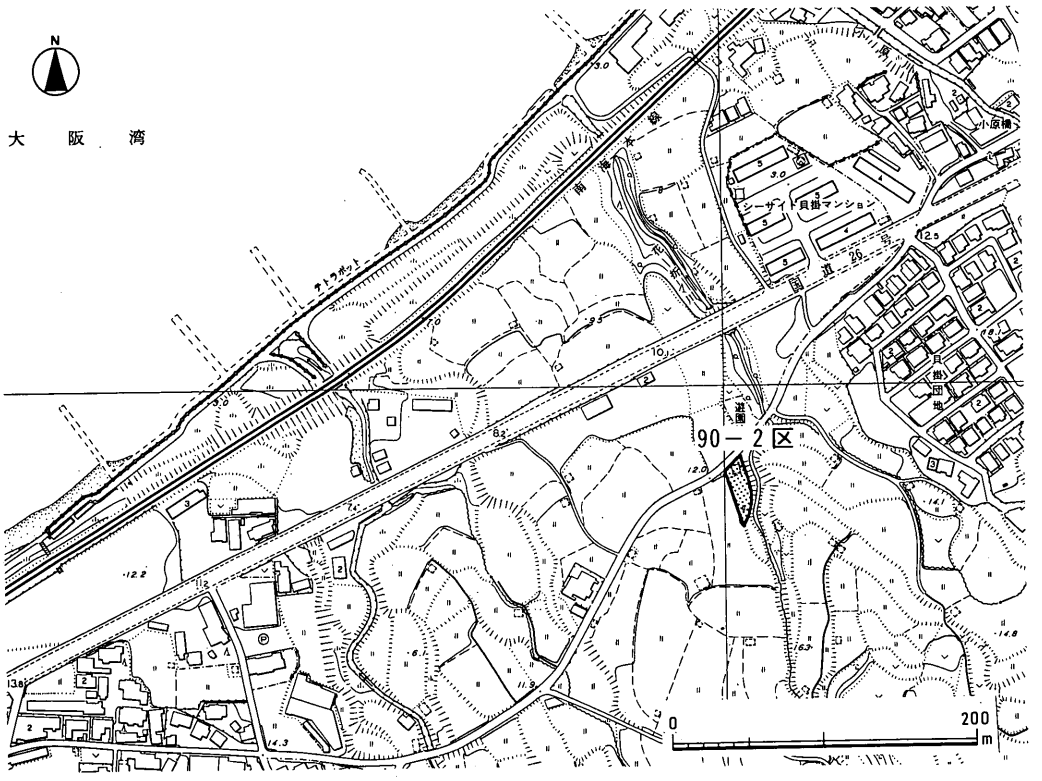
遺物、遺構ともに検出されなかった。



第25図　箱作今池遺跡90－3区
トレンチ西側断面図

4節　貝掛遺跡

貝掛遺跡は、阪南町の中央部に位置し、釈迦坊川、花折川が形成する平野部に拡がっている。既往の調査では、縄文～弥生時代の石鏃、須恵器、土師器、瓦器、陶磁器に至るまで、様々な時代の遺物が出土している。また、中世期の溝等についても検出されている。また、明治期に廃絶したと伝えられ、当時の絵図や文献上で知られていた近世期の村落が、昭和62年に(財)大阪府埋蔵文化財協会によって実施された発掘調査で明らかにされたことは特筆されよう。



第26図　貝掛遺跡　調査区位置図

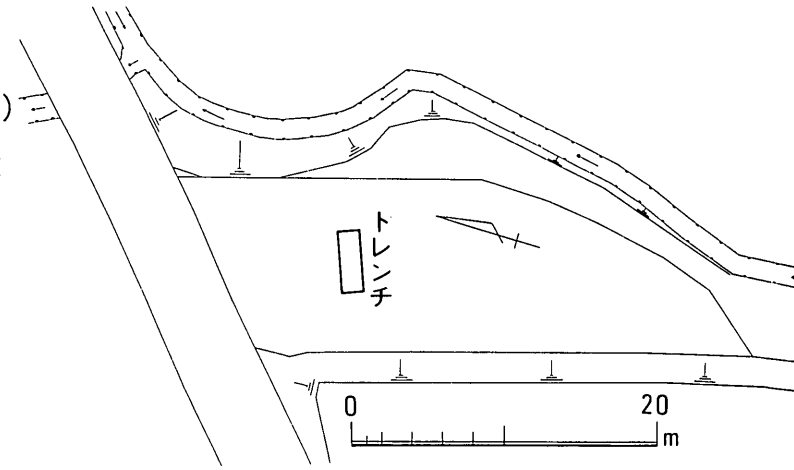
90－2区

1．位置（第26図）

調査区は、貝掛遺跡の東端部分にあたる。花折川に隣接しており、この河川の段丘上にあたる。

2．調査の概要

（第27・28図、図版8）

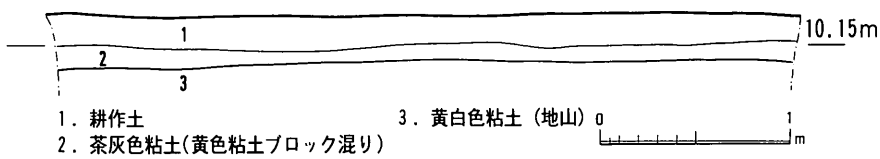


第27図　貝掛遺跡90－2区　トレンチ位置図

調査は、調査区のほぼ中央部に、1.5m×4mのトレンチを設定して実施した。

基本的な層序は、第28図のとおりである。第2層から、土師器、須恵器の破片が検出された。

遺構は、検出されなかった。



第28図　貝掛遺跡90－2区　トレンチ南側断面図

5節　神光寺（蓮池）遺跡

神光寺（蓮池）遺跡は、阪南町のほぼ中央部に位置している。旧石器時代終末期の有舌尖頭器が採集されているのをはじめ、これまでの調査では、弥生時代と中世期を中心として様々な時代の遺物、遺構が報告されている。

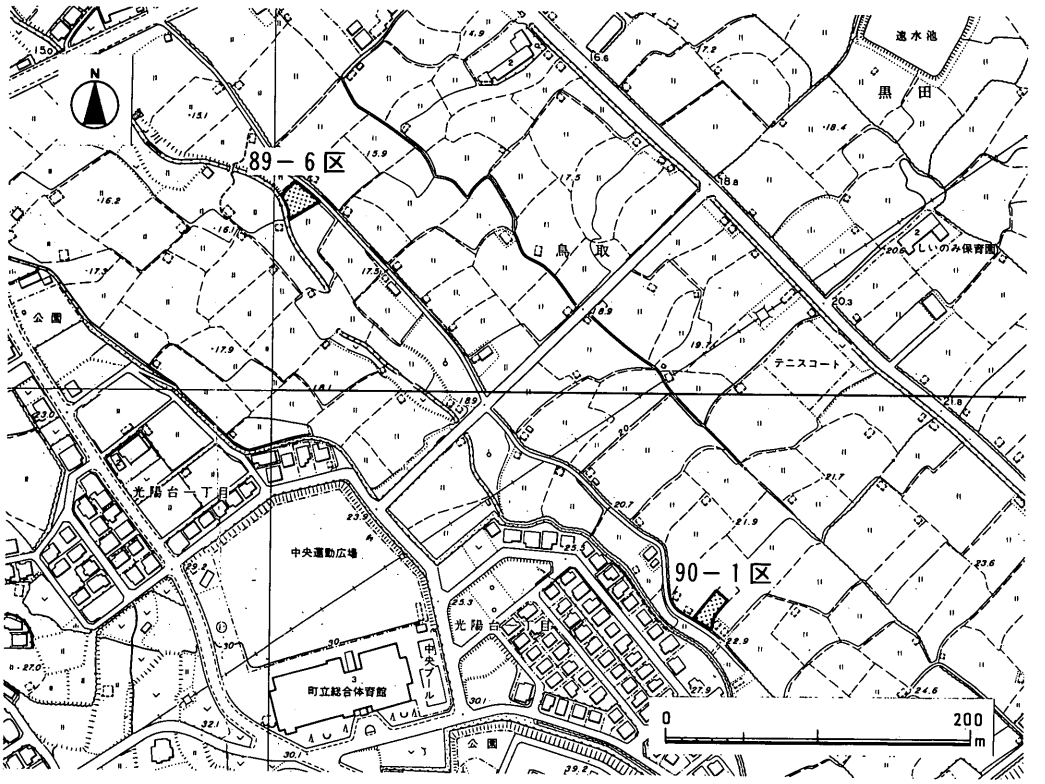
弥生時代では、中期の方形周溝墓や自然流路等が同時期の遺物とともに検出されている。中世期としては、明治初期の廃仏毀釈により廃寺となった神光寺のものと考えられる瓦、青磁碗等の遺物、井戸等の遺構が検出されている。

また、遺跡の南方部で、条理制のなごりが現在でもみられ、この地域は、町内でも、比較的早い時期に開墾されたものと考えられる。

89－6区

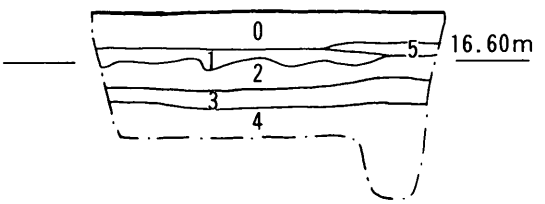
1．位置（第29図）

調査区は、神光寺（蓮池）遺跡の南西端部に位置し、上述した条理制の跡が



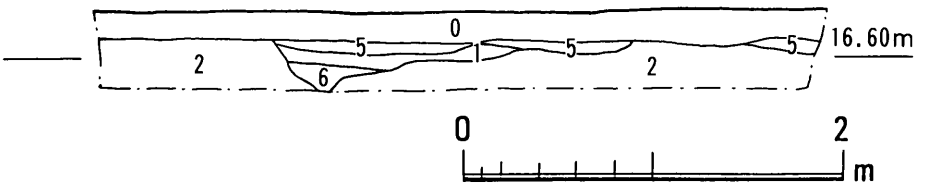
第29図　神光寺（蓮池）遺跡　調査区位置図

1トレンチ　西側断面図



0．耕作土
1．灰黄色土
2．淡黄色土（灰色混り）
3．黄褐灰色土
4．黄茶灰色土
5．黄灰色土
6．灰茶色土

2トレンチ　西側断面図



第30図　神光寺（蓮池）遺跡89－6区　トレンチ断面図

残る地域にあたる。

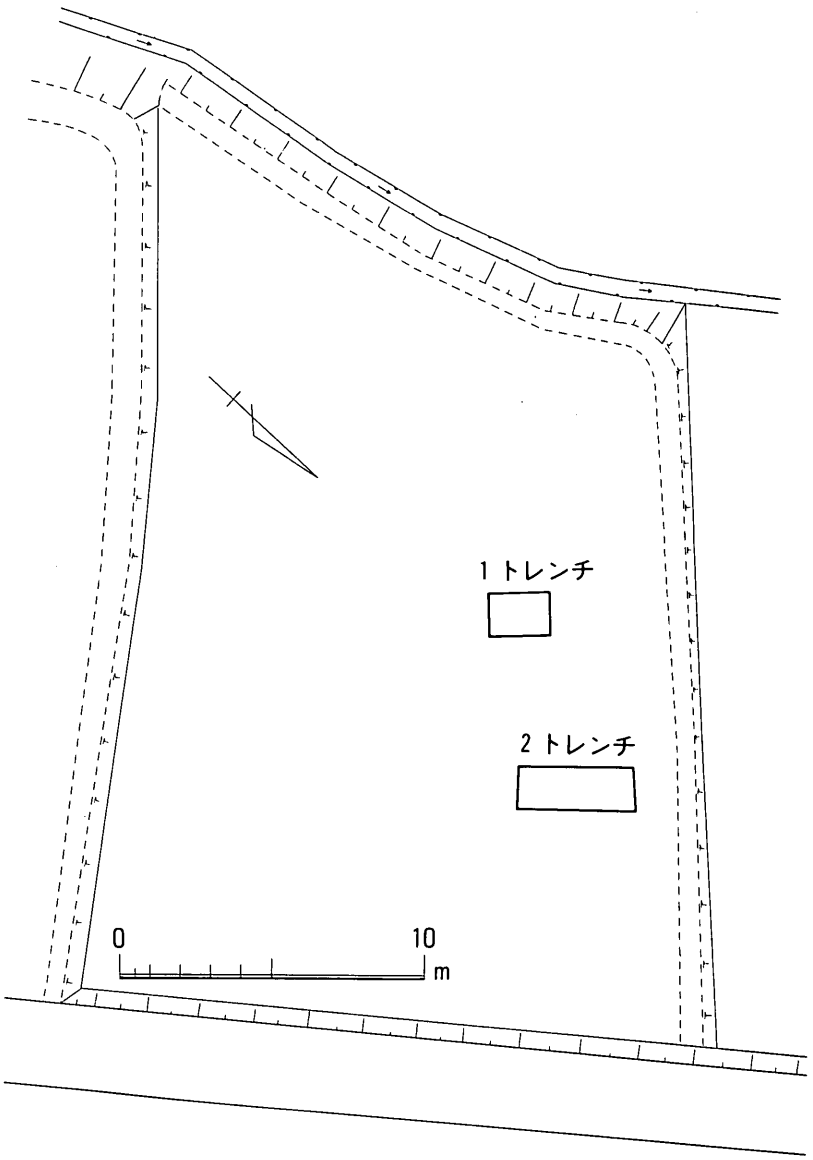
2．調査の概要

（第30・31図、図版8）

調査は、調査区に、1.5m×2m、1.5m×4mのトレンチを設定して実施した。前者を1トレンチ、後者を2トレンチとした。

基本的な層序は、第30図のとおりである。

遺物、遺構ともに検出されなかった。



第31図　神光寺（蓮池）遺跡89－6区　トレンチ位置図

90－1区

1．位置

（第29図）

調査区は、神光寺（蓮池）遺跡の西端部に位置し、近年の造成工事によって改変された谷状地形の出口部分にあたる。

2．調査の概要（第32・33図、図版9）

調査は、調査区に、2m×6mのトレンチを設定して実施した。

基本的な層序は、第33図のとおりである。第2～4層が遺物包含層で、弥生土器、土師器、須恵器、サヌカイトの破片等が検出された。

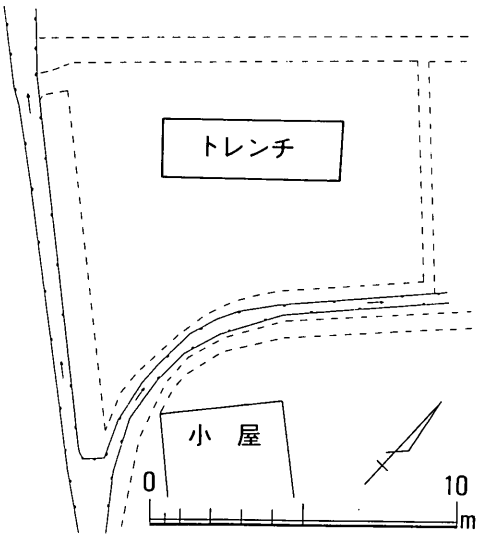
3．遺構（第33図、図版９）

流路－１

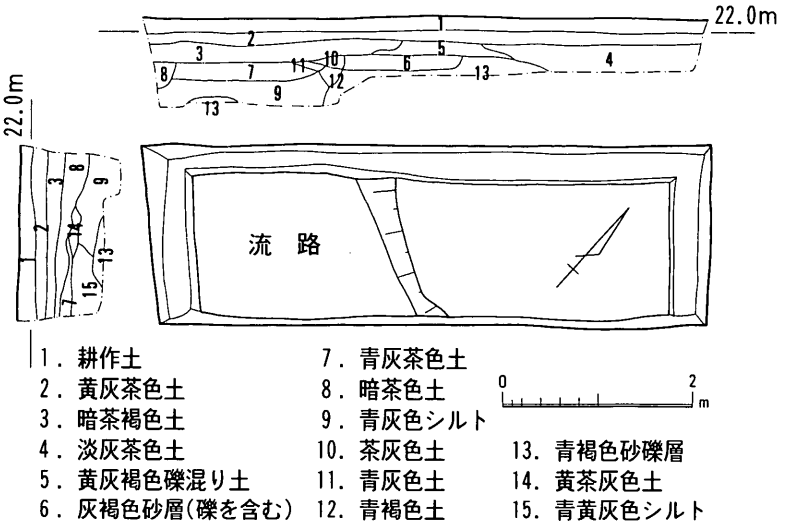
トレンチの西端で検出した。幅2.4m以上、遺構検出面からの深さ約0.3m以上を呈する。埋土中から、土師器片、弥生時代後期のものと思われる甕の底部が検出された。

4．遺物（第34・35図、図版９・10）

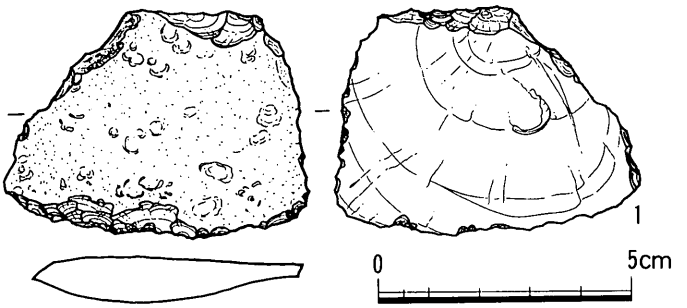
１は、サヌカイト製のスクレイパーである。２は、先述した流路内から検出された弥生時代の甕底部で、後期のものと思われる。かなりの磨滅を受けており、調整等の詳細については不明である。３は、遺物包含層中より検出された須恵器杯身の高台部分である。



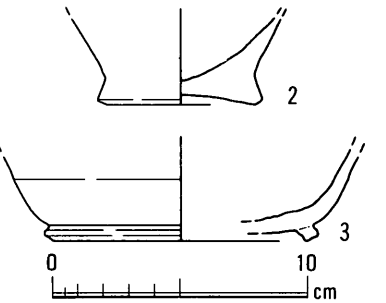
第32図　神光寺（蓮池）遺跡90－１区
トレンチ位置図



第33図　神光寺（蓮池）遺跡90－１区　トレンチ平面図・断面図



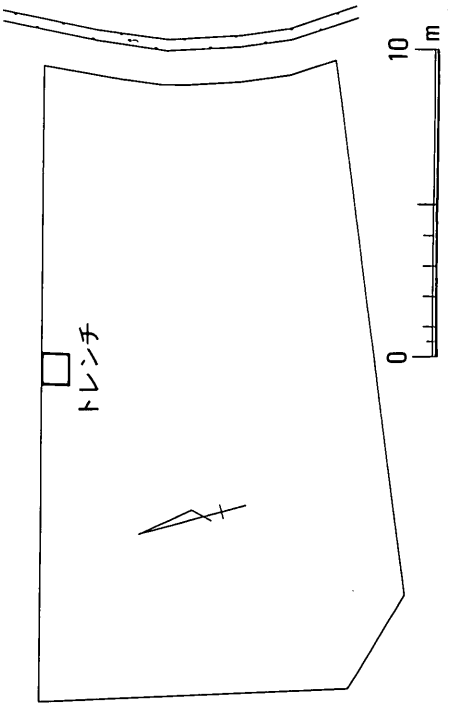
第34図 神光寺（蓮池）遺跡90－１区　出土遺物



第35図 神光寺（蓮池）遺跡
90－１区　出土遺物

6節　自然田遺跡

自然田遺跡は、阪南町のほぼ南西部、玉田山等を形成する台地の前面に拡がる平野部に位置している。サヌカイトのナイフ形石器が出土しているのをはじめ、これまでの調査では、縄文時代から近世期にかけての様々な時代の遺物が検出されている。遺構としては、中世期の溝や流路、近世期の溝等が検出されている。

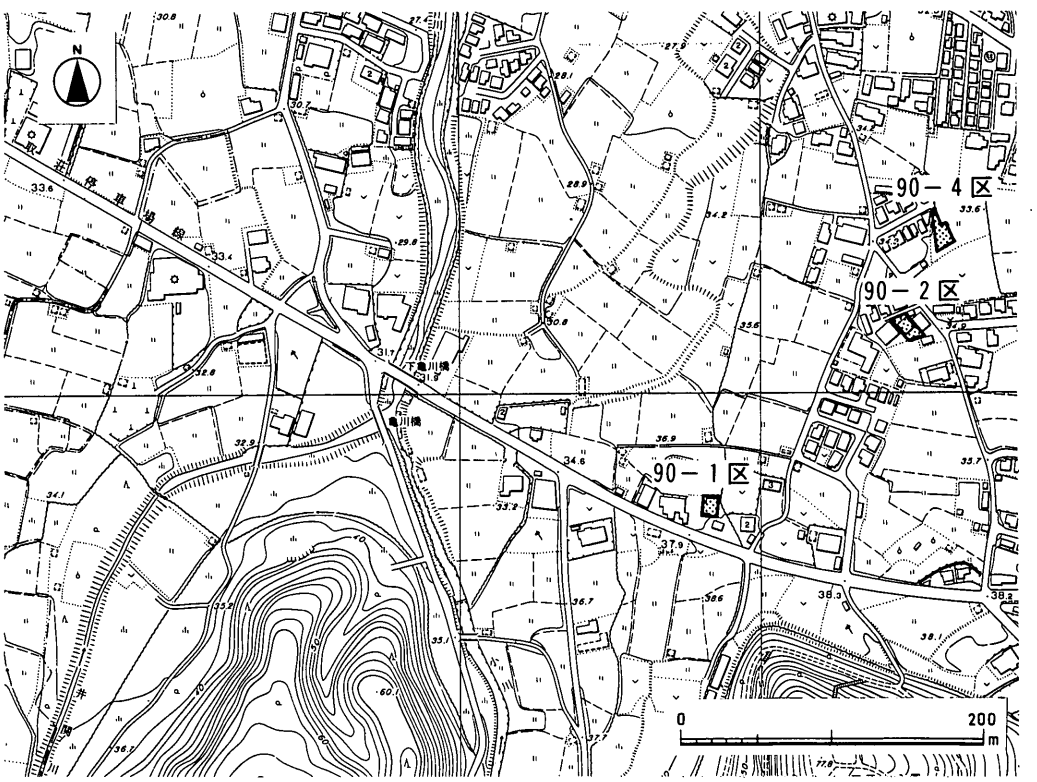


第36図　自然田遺跡90－1区
トレンチ位置図

90－1区

1．位置（第37図）

調査区は、自然田遺跡の南西端部に位置し



第37図　自然田遺跡　調査区位置図

ている。

2．調査の概要（第36図）

調査は、調査区に、１ｍ×１ｍのトレンチを設定して実施した。人力で掘削を行ったが、盛土が非常に厚く遺構面まで達しなかった。

90－２区

1．位置（第37図）

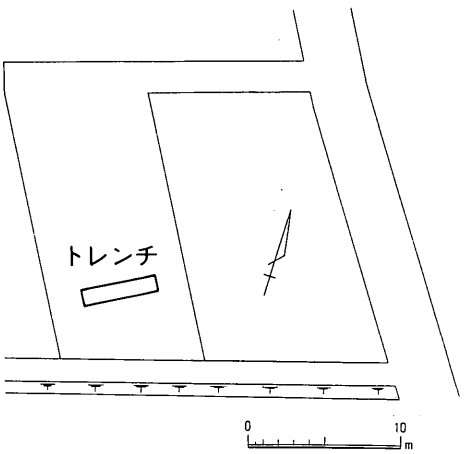
調査区は、自然田遺跡のほぼ中央部に位置している。

2．調査の概要（第38・39図）

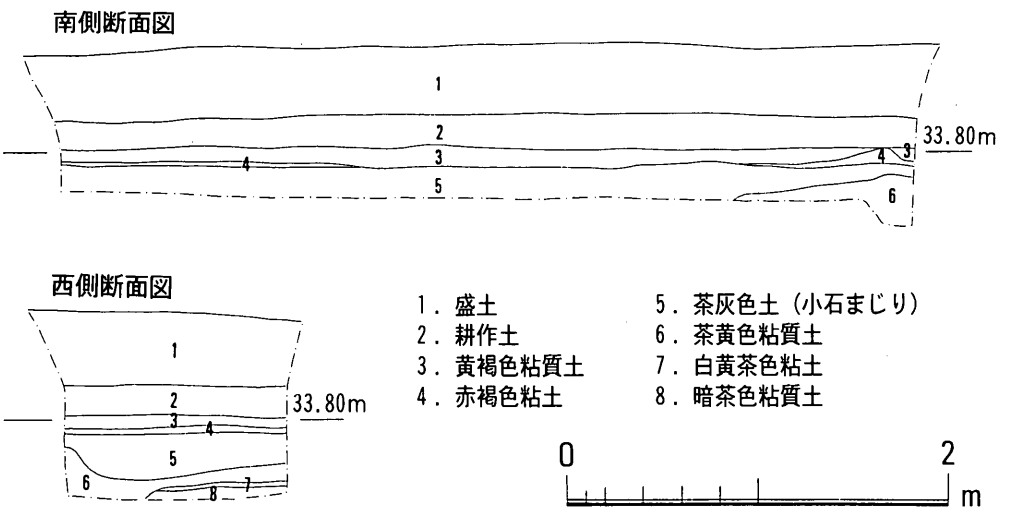
調査は、調査区に、２ｍ×５ｍのトレンチを設定して実施した。

基本的な層序は、第39図のとおりである。第３、４層が遺物包含層であった。同層中より、土師質土器、陶磁器の破片が検出された。細片のため、図化し得なかった。

遺構は、検出されなかった。



第38図　自然田遺跡90－２区
トレンチ位置図



第39図　自然田遺跡90－２区　トレンチ断面図

90－4区

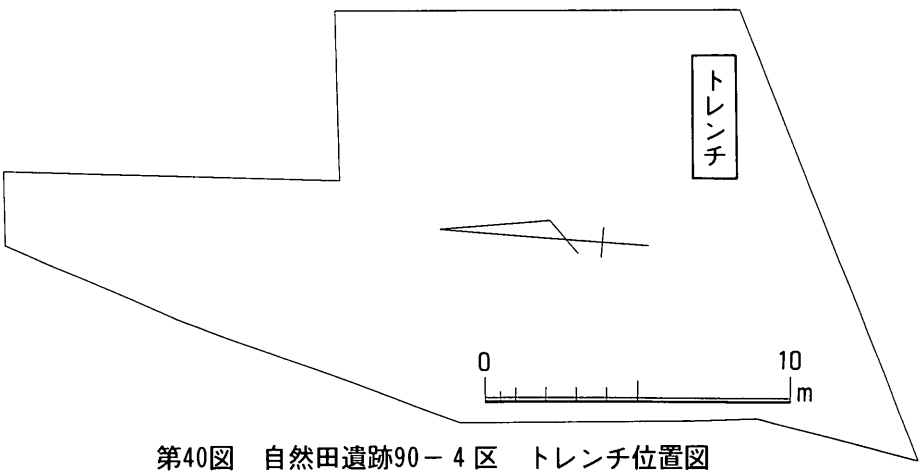
1．位置（第37図）

調査区は、自然田遺跡の北部に位置している。

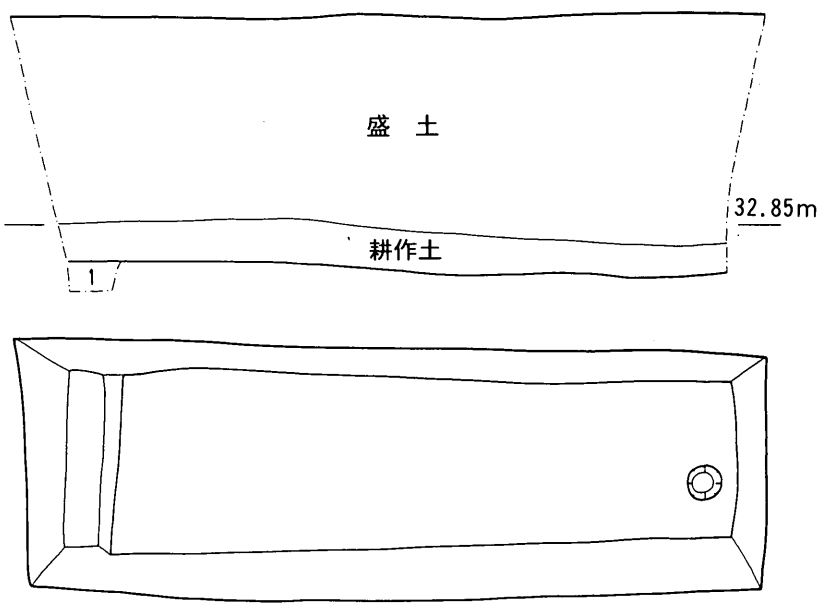
2．調査の概要（第40・41図、図版10）

調査は、調査区に、1.5m×4mのトレンチを設定して実施した。

盛土、耕作土の直下が淡黄茶色粘質土の無遺物層であった。この層の上面で、ピットを検出した。径約0.2m、検出面からの深さは、約0.2mであった。



第40図　自然田遺跡90－4区　トレンチ位置図



第41図　自然田遺跡90－4区　トレンチ南側断面図・平面図

第4章　まとめ

以上のように、今年度は、田山遺跡他5遺跡で実施した発掘調査の報告を行った。きわだった成果は認められなかったが、以下に若干まとめてみた。

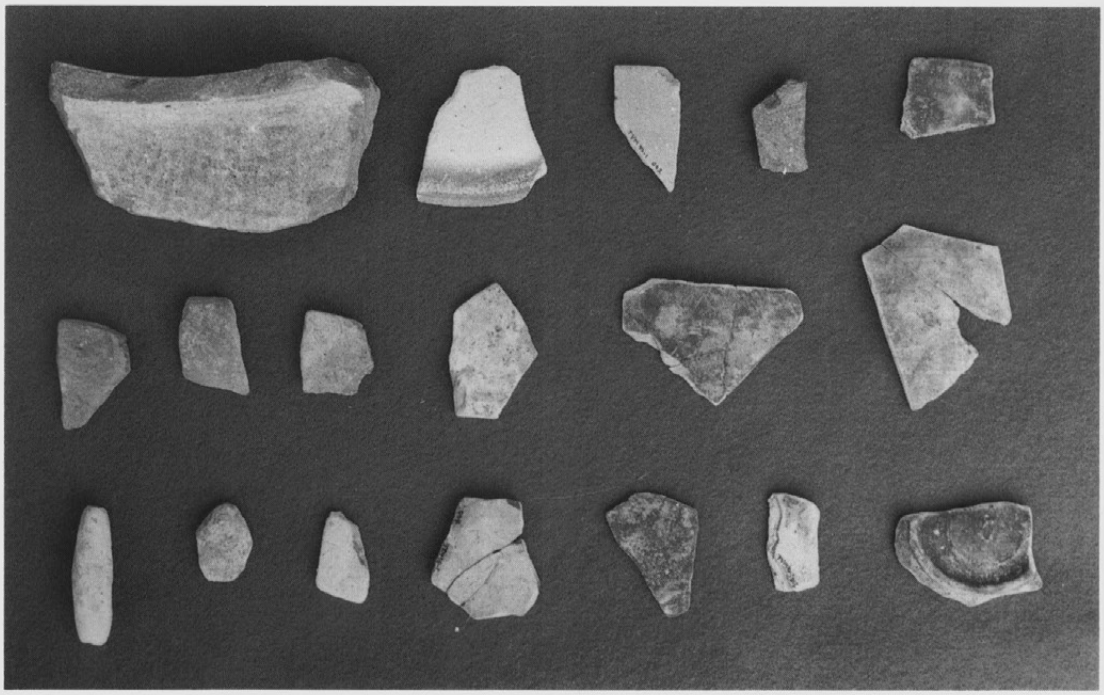
まず、平成元年11月に周知されたばかりの田山東遺跡で遺物、遺物包含層が検出できたことは、分布調査の必要性を実証した好例といえよう。

また、田山遺跡の西端部にあたる90－2区での調査成果は、この田山遺跡の範囲がさらに西側に拡がる可能性を示すものとなった。これまで、田山遺跡の中心は遺跡の北側付近であると考えられていた。この事実は変わることはないであろうが、中世期と思われる溝等を90－2区で検出したので、同時期の生活跡がこの付近に存在することが推定されるようになった。

この他、神光寺（蓮池）遺跡90－1区では、弥生時代の土器を含む流路を検出した。以前より同遺跡からは、中期の方形周溝墓や当時の遺物を数多く検出しているが、集落跡については、未検出のままである。集落の場所については、この調査区から若干離れた場所を想定したほうがよさそうである。現在は、改変されて、ため池やゴルフ場、住宅地になっている遺跡南側の丘陵部分に、その集落の存在を想定することはできないであろうか。集落のすぐ下に拡がる低湿地に生産の基盤を設け、集落を洪水等を避けた丘陵上に営んだと考えるのは早計であろうか。近年、この神光寺（蓮池）遺跡内だけではなく、周辺地域における調査が待たれよう。

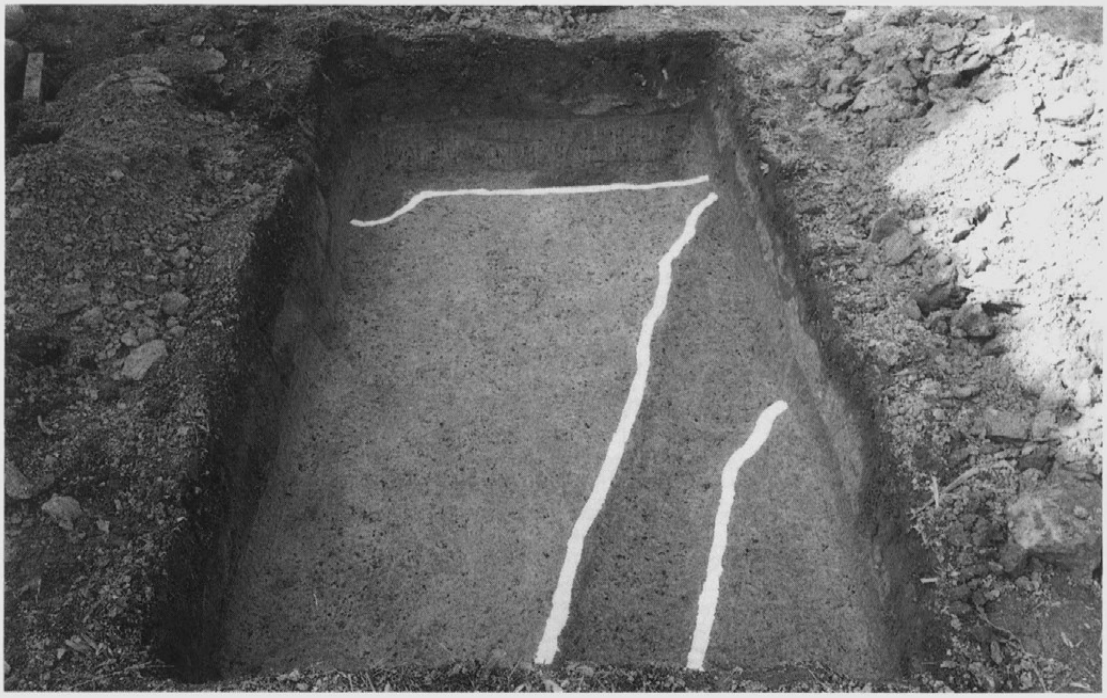
図版1　田山遺跡90－1区

1トレンチ全景（西より）

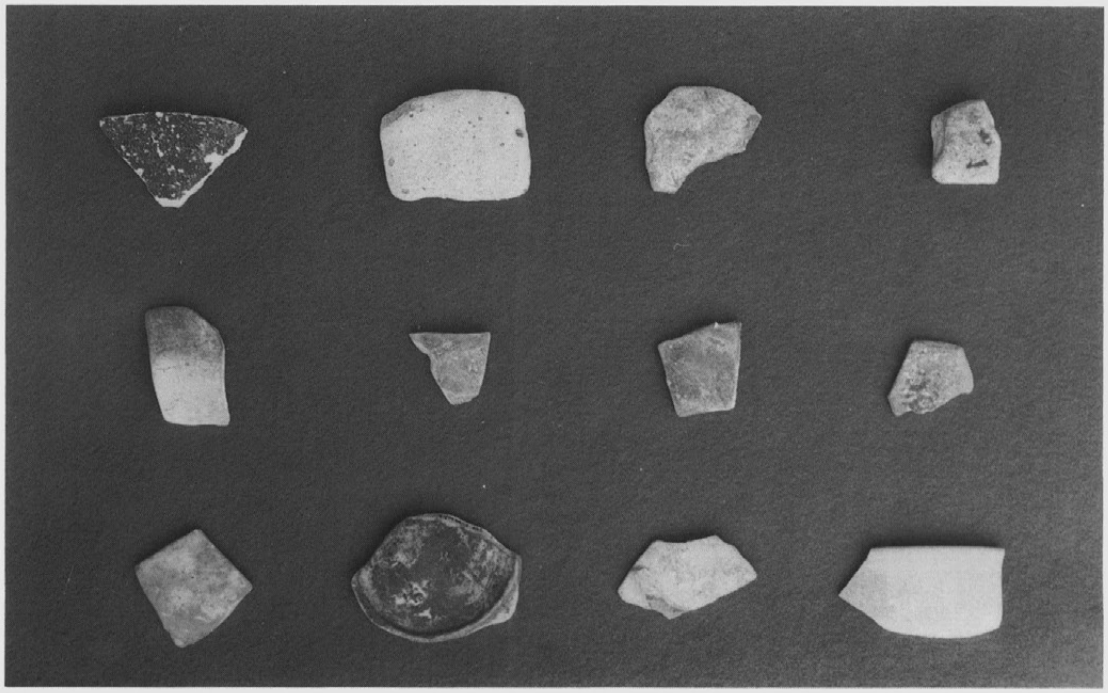


出土遺物

図版2　田山遺跡90－2区



2トレンチ全景（南より）



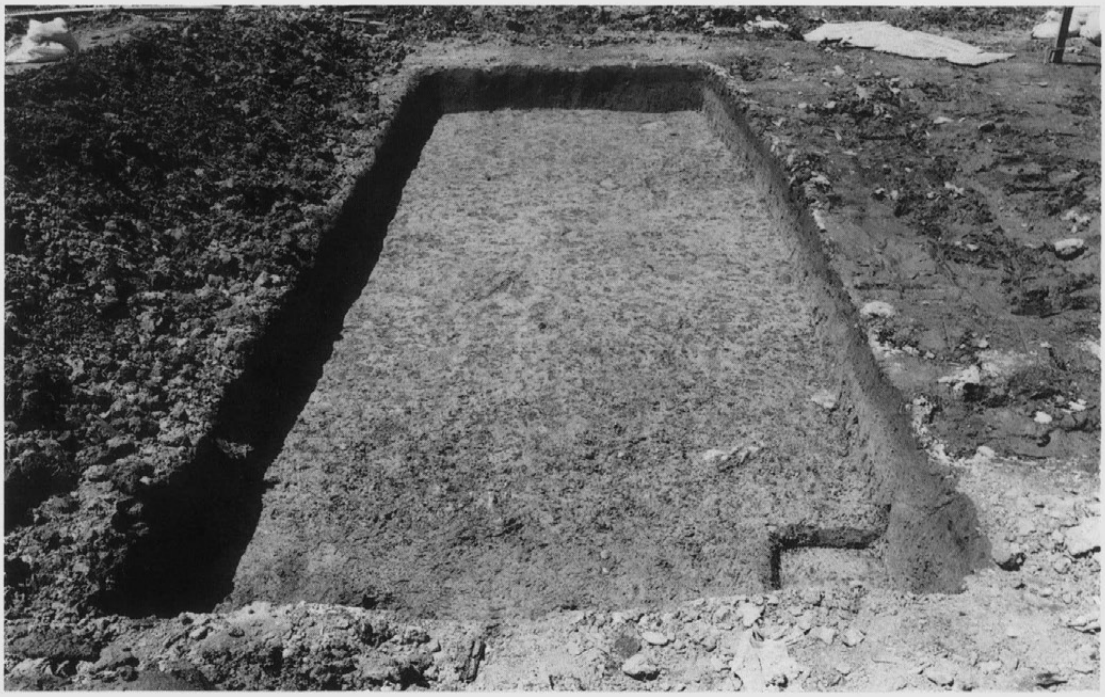
出土遺物

図版3　田山遺跡90－4区

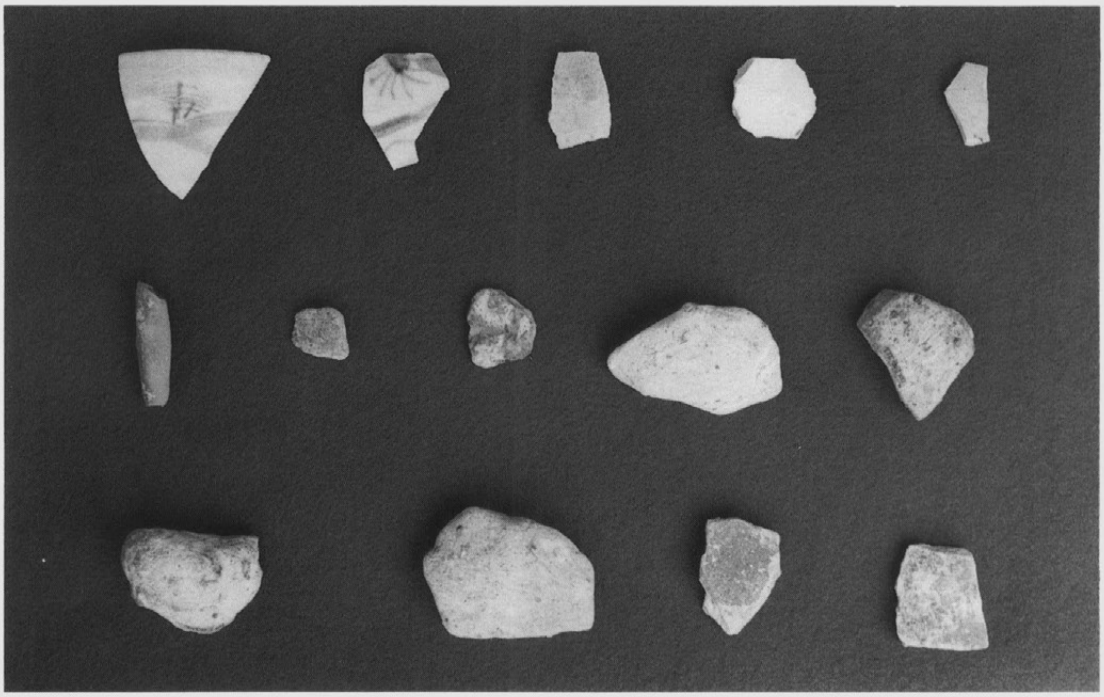
トレンチ全景（北より）

出土遺物

図版4　田山東遺跡90－1区



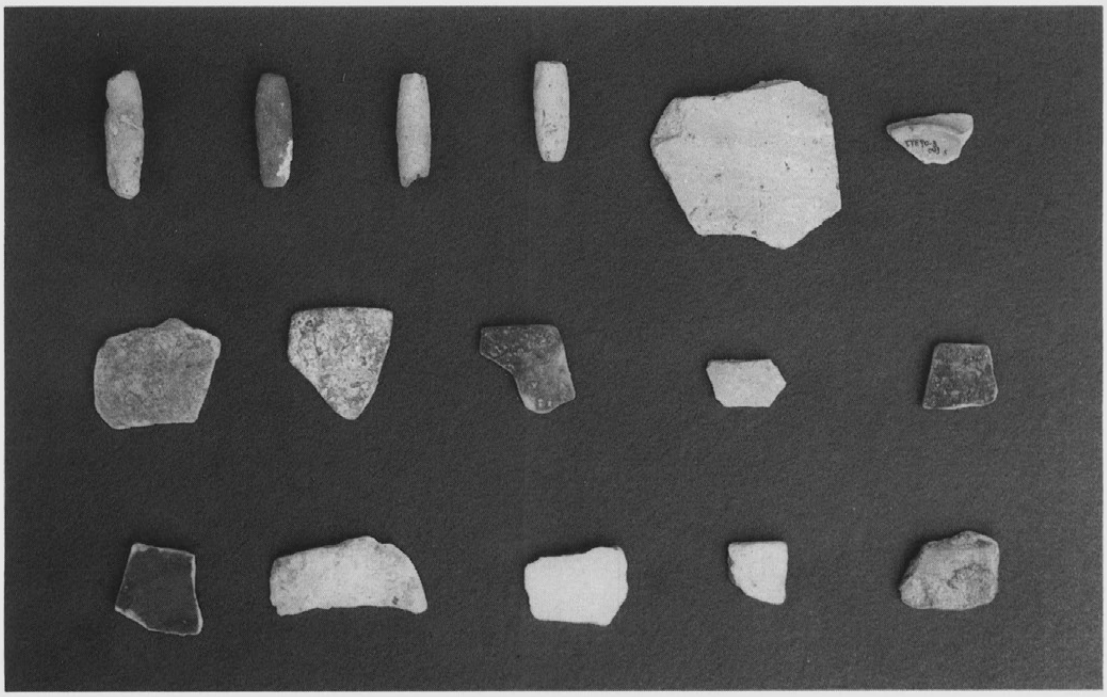
2トレンチ全景（北より）



出土遺物

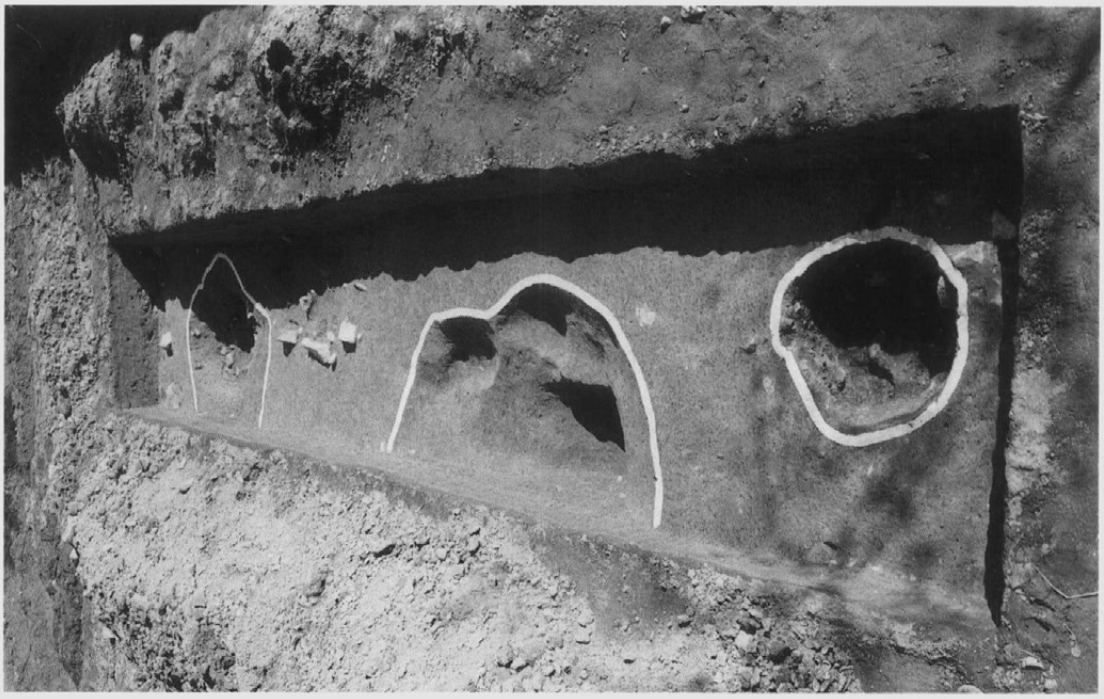
図版5　田山東遺跡90－3区

2トレンチ全景（南より）

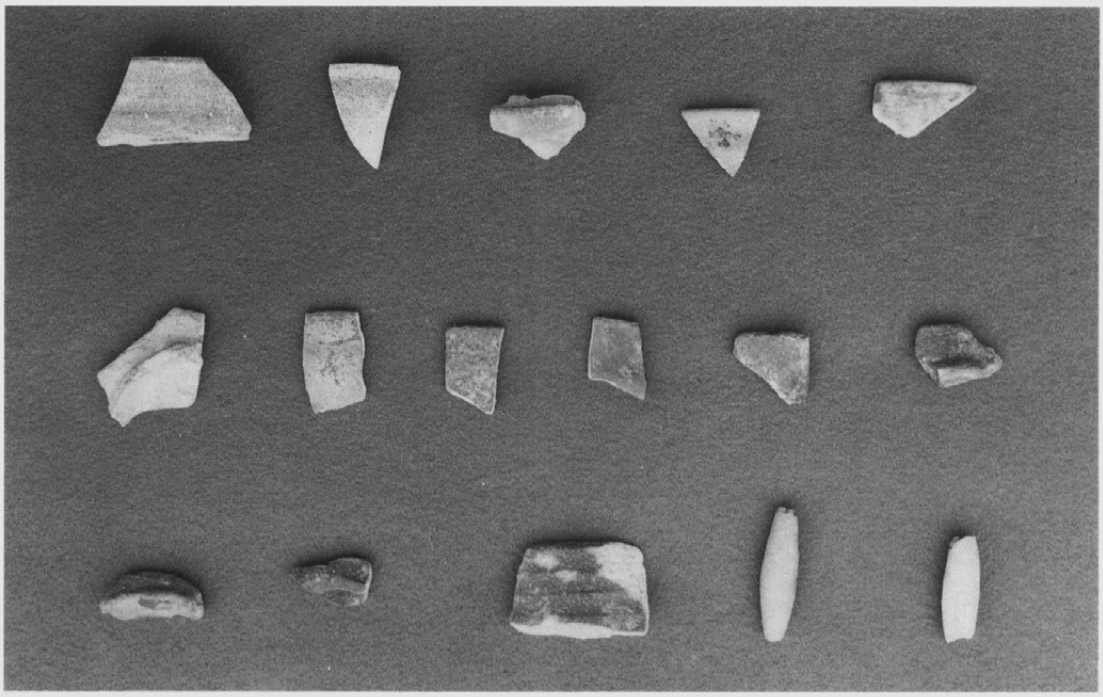


出土遺物

図版6　箱作今池遺跡89－3区



トレンチ全景（西より）



出土遺物

図版7　箱作今池遺跡90－2区・90－3区

90－2区　トレンチ全景（南より）

90－3区　トレンチ全景（北より）

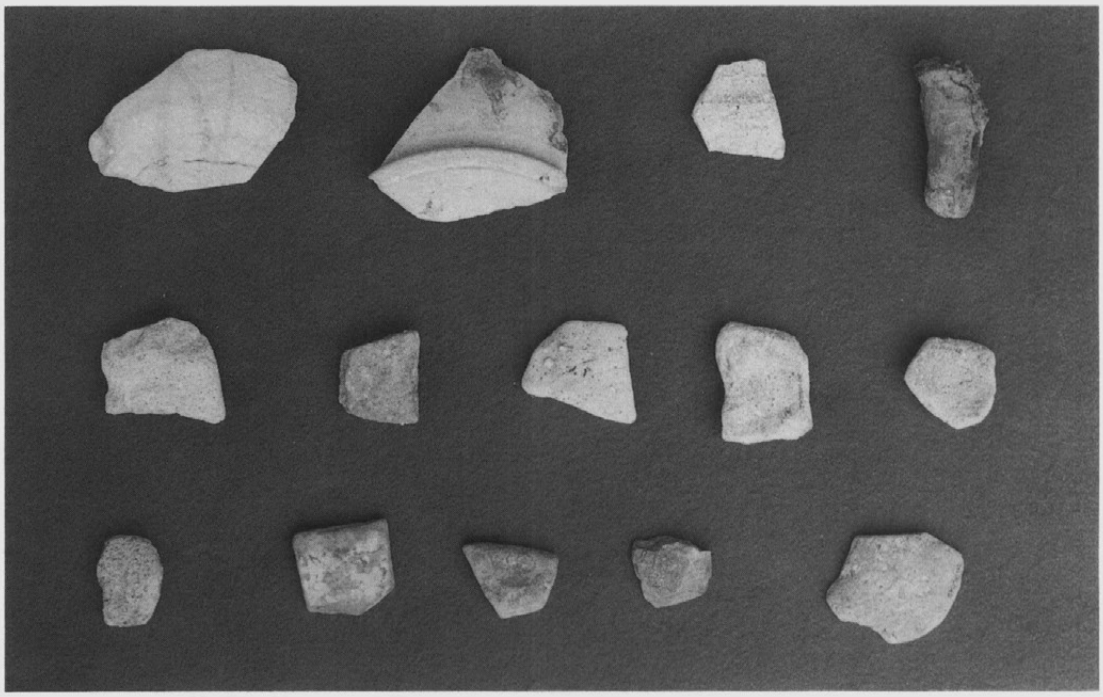
図版8　貝掛遺跡90－2区・神光寺（蓮池）遺跡89－6区

貝掛遺跡90－2区　トレンチ全景（東より）

神光寺（蓮池）遺跡89－6区　2トレンチ全景（北より）

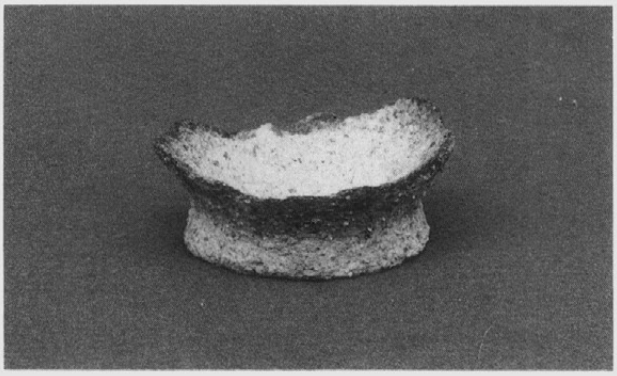
図版9　神光寺（蓮池）遺跡90－1区

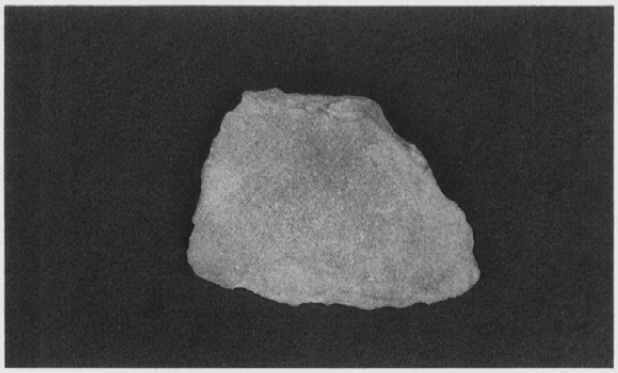
トレンチ全景（西より）



出土遺物

図版10　神光寺（蓮池）遺跡90－1区・自然田遺跡90－4区





神光寺（蓮池）遺跡90－1区　出土遺物

自然田遺跡90－4区　トレンチ全景（西より）

阪南町埋蔵文化財報告 XI

阪南町埋蔵文化財発掘調査概要VI

平成３年３月

発　行：阪南町教育委員会社会教育課
大阪府泉南郡阪南町尾崎町35の１

印刷者：西岡総合印刷株式会社
和歌山市吹屋町５丁目54